

令和4年度

小学校家庭科実践集録

第58号



愛媛県教育研究協議会 技術・家庭委員会

目 次

はじめに

研究の計画	-----	1
研究実践		
(1) 生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成 －第5学年「生活を支えるお金と物」の実践を通して－ （四国中央支部）	-----	3
(2) 生活をよりよくしようとする実践的な態度の育成 －第6学年「まかせてね 今日の食事」の実践を通して－ （新居浜支部）	-----	9
(3) 自分の思いを豊かに表現する児童の育成 －第6学年「クリーン大作戦」の実践を通して－ （松山支部）	-----	15
(4) 生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成 －第5・6学年「食べて元気」の実践を通して－ （上浮穴支部）	-----	21
(5) 豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 －第5学年「生活を支えるお金と物」の実践を通して－ （西予支部）	-----	27
(6) 生活をよりよくしようと主体的に考え、実践しようとする力を育てる家庭科学習 －第5学年「生活を支えるお金と物」の実践を通して－ （北宇和支部）	-----	31
研究会報告	-----	37
令和4年度 愛媛県教育研究協議会技術・家庭委員会小学校部会役員名簿	-----	38

はじめに

令和2年4月から全面実施となった小学校学習指導要領が3年目を迎えました。各学校におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から学習活動等において様々な制約がある中、新学習指導要領の着実な実施を目指して、工夫・改善をしながら学習を進められていることと思います。

これからの社会を担う子どもたちには、グローバル化、少子高齢化社会の進展など急激に変化する社会の中で、持続可能な社会の創り手となる主体的な資質・能力が求められています。このような予測困難な時代を生き抜いていくためには、一人一人が自立し、家庭や地域社会の中で共に支え合い、よりよく生きていこうとする子どもたちを育てることは必須であり、その基礎となる家庭科教育の果たす役割は極めて重要です。小学校家庭科においては、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」を育成することを目指しています。この家庭科教育で目指す資質・能力を育てるために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を求めて、日々の授業実践を積み重ねているところです。

愛媛県教育研究協議会技術・家庭委員会小学校部会では、研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育—生活を見つめ、考え、よりよくしようとする実践する子どもの育成—」として、「日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能」、「生活を見つめ、課題を解決する力」、「家庭生活を大切する心情、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度」の三つの資質・能力の育成を目指して、研究を進めています。また、昨年度から本格的に導入された一人一台端末などのICTを効果的に活用し、児童の思考の過程や結果を可視化・共有化して、家庭科における「見方・考え方」を働かせて、より質の高い学びにつなげようとしていることと思います。

家庭科における「見方・考え方」とは、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」と示されています。この「見方・考え方」を働かせながら、子どもが日常生活の中から見いだした課題を設定し、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて、身近な課題を解決する資質・能力を育む学習活動を工夫することを通して、「できる・分かる・考え実行する授業づくり」を目指しています。家庭科学習では、「分かった！」「できた！」だけでなく、「なぜそのようにするのか」という疑問を大切にして、試行錯誤しながら根拠とともに理解し、技能として身に付けられるようにすることが求められています。そのことが、「家庭や地域などにおける様々な場面で活用される知識や、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能」を身に付けることとなります。さらに、習得した知識・技能を活用して、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題解決に向けて、自分なりに考え、表現するなどして、身近な課題を解決する力を身に付けていくことが大切です。

本集録には、県下各支部の先生方が様々な制限のある中で創意工夫を凝らして取り組んだすばらしい研究実践がまとめられています。本集録に収められた研究実践を各学校の実態に応じてさらに改善を加えながら、日々の指導に生かしていただきたいと思っております。

最後になりましたが、本集録の作成に当たり御尽力いただきました、すべての関係者の皆様方に、心より感謝申し上げます。

令和5年2月

愛媛県教育研究協議会 技術・家庭委員会
小学校部会委員長 村井 成己

(小学校)

家 庭

I 研究主題

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

－生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成－

II 研究のねらい

- 子ども一人一人が、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるようにする。
- 生活を見つめ、人、自然や環境、社会、生活文化と豊かに関わりながら課題を解決する力を養う。
- 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

III 研究の視点

1 基礎・基本の定着と活用を図る指導計画

(1) 育成すべき資質・能力の明確化

- 「知識及び技能」の習得に係る事項と、「知識及び技能」を活用して「思考力、判断力、表現力等」を育成することに係る事項との関連を図りながら、各題材で育成すべき資質・能力の明確化を図る。
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視する。

(2) 家庭生活を総合的に捉えたカリキュラム・マネジメントの推進

- 段階的に繰り返し学びながら基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られるよう題材構成や配列を工夫する。
- 「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の内容を相互に関連させ、指導の効果を高める。
- 家庭と地域との関連、学校行事や他教科等との関連を図りながら、題材や学習活動を設定する。
- 小・中学校5年間の学びの見通しをもち、系統的な指導が行えるよう指導計画を見直す。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(1) できる・分かる・考え実行する授業づくり

できる・分かる・考え実行する授業とは…

- 日常生活から問題を見だし、解決すべき課題の追究を通して、自分の思いや願いがかなうわくわくする授業
- 生活に必要な力が身に付いたと実感できる授業
- 身に付けた力を基に、生活をよりよくする方法を新たに考え出す授業
- 考えを出し合いながら、自らの考えを広げ深め、課題解決に向けていきいきと行動する授業
- 生活に生かしたいという実践意欲がむくむくと湧き起こる授業

(2) 子どもの主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫

- 解決すべき課題を明確に設定し、子どもの意識の流れに沿った学習展開を工夫する。
- 学習内容を生活で生かす場を設定し、自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長を自覚し、実践する喜びに気付いたりする活動の充実を図る。

- 実習や観察、調査、実験など実践的・体験的な活動を充実させ、実感を伴う学びを促す。
- 個に応じた指導内容や指導方法を工夫し、子ども一人一人の個性を生かし伸ばす学びを確保する。

(3) 対話的で深い学びにつながる指導方法の工夫

- 課題解決に向けて学びの協働や意見の共有を図り、思考を広げ深め合う学習を実現する。
- 言葉や図表、概念などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、体験したことを説明したり、表現したりするなどの言語活動を充実させる。
- ICTを積極的に活用し、思考の過程や結果を可視化・共有化したり、情報を収集し編集したりすることを繰り返し行うことで、試行錯誤しながら学習を進められるようにする。
- 子どもが考える場面と教師が教える場面を効果的に組み立て、学びの深まりをつくる。
- 生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、身近な生活の課題を解決する資質・能力を育む学習活動を工夫する。

3 子どもが伸びる学習評価

(1) 自己の成長を自覚できる評価の工夫

- 子どもの思考を可視化し、学習過程を評価できるワークシートや評価カードを工夫する。
- 2年間の自己の学びや成長を実感できるワークシートや記録の仕方を工夫する。

(2) 子どもの成長や授業改善に生きる評価の工夫と蓄積

- 目標を明確にし、具体的な評価規準を基に適切な方法で評価したものを蓄積し、子どもの指導や授業の改善に生かすなど、目標・指導・評価の一体化を図る。
- 子どもの思考の変容や資質・能力の伸びを見取る多様な評価方法を工夫する。

4 家庭や地域との連携

(1) 学校と家庭・地域をつなぐ学習展開の工夫

- 学校と家庭生活のつながりを重視した指導計画を工夫し、家庭や地域と積極的に連携したり、地域人材・伝統行事等を活用したりする。
- 生活文化の大切さや郷土のよさに気付く教材開発に努める。

(2) 継続的な実践を促す工夫

- 各種発行物や参観日等を通して家庭に情報提供し、日常生活や長期休業中の実践への協力を依頼するなど、習得した力を実生活で活用できる場を設定する。

IV 留意事項

- 栄養教諭等との連携など食に関する指導の充実を図り、調理実習では食物アレルギーなどについても配慮する。
- 総合的な学習の時間をはじめ他教科等との関連を図る際は、家庭科としてのねらいを明確にして指導に当たる。
- 特別の教科道徳との関連を図り、指導の内容や時期等に配慮して相互の効果を高める。
- 施設・設備の安全管理や学習環境の整備に努め、安全・衛生（感染症対策を含む）に関する指導の徹底を図る。

生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成

——— 第5学年 「生活を支えるお金と物」の実践を通して ———

四国中央支部

1 研究の視点

- (1) 児童の主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫
- (2) 対話的で深い学びにつながる指導方法の工夫

2 実践事例

- (1) 題材名 「生活を支えるお金と物」

- (2) 目標

- 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解する。
- 身近な物の選び方や買い方が分かり、購入するために必要な情報の収集・整理ができる。
- 身近な物の選び方や買い方の工夫を考え、自分の生活の課題を解決しようとしている。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童23名は、普段の家庭生活の中で、料理や裁縫などに意欲的に取り組んでいる児童が多い。また、家庭生活の中で仕事の役割を持っている児童も複数いる。一方で買物をしたことがある児童はクラスの12人だった。また、買物をしたことのある児童の半分が買物で「お金を使いすぎてしまった」「買いすぎて処分したことがある」などの失敗をしたと回答している。そこで、買物経験が少なかったり、実際に失敗したりしたことがあるといった課題を解決していきけるよう、条件を設定した体験活動を多く取り入れ、その解決方法を考えていく形で取り組んでいく。
- 本単元は、小学校学習指導要領の家庭科のC消費生活・環境 (1)物や金銭の使い方と買物「ア(ア)買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解すること。(イ)身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報を収集・整理ができること。」で構成される内容である。物や金銭の大切さについて理解させ、買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせていく。そのために、毎時間の授業で一つ課題を設定し、それを解決する体験活動を意図的に取り入れていく。また、買物活動が知識だけにならないように話し合い活動やアドバイスタイムを行い、多面的な意見に触れさせ、考える視点を持たせられるようにする。
- 本時では、事前に行ったアンケートや、児童の実態から、体験的な買物場面を設定し、様々な情報を整理し、買物をする力を身に付ける。そこで、既習の内容を活用しながら、商品の条件や消費者の状況・収入を提示し、課題を解決する活動を行う。初めに、「自分の買い物3か条」をペアで共有し、話し合い活動の際、互いにアドバイスし合い、目的を持って本時の活動を考えられるようにする。また、買物活動の条件設定を提示する際、場面を意識しやすいようT1、T2による役割演技や導入動画を見せることで活動のねらいを正確につかませ、課題解決ができるようにする。買物活動はロイロノートを使用し、様々な条件の商品から自分で考えたものを選んでいく。買物活動後はペアで互いに買ったものとその理由を紹介し、良いと思う点や共通する点を伝え合うようにする。その後、全体で共有することで多面的な意見に触れさせる。最後に、「自分の買い物3か条」を再検討し、より買物に対する理解を深めていくとともに、生活の中で実践的な力となるようつなげていきたい。

- (4) 本時の指導

- ア ねらい 様々な条件や状況に応じた買物ができるようにする。
- イ 準備物 タブレット、アンケート、大型提示装置、掲示資料
- ウ 展開

学習活動	主な発問と予想される児童の活動	指導上の留意点(○) 評価(◎) 授業【UDの視点】	
		T 1	T 2
1 前時の振り返りをする。	○ 「自分の買い物3か条」をグループで共有しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お金を節約する。 ・ 環境にいいものを選ぶ。 ・ 安全なものを選ぶ。 ・ 無駄な買物をしない。 	○ 話し合い活動の前に自分の「買い物3か条」を共有することで互いにアドバイスし合えるようにする。【 焦点化 】 ○ 学習の過程を確認する。【 視覚化 】	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">買い物名人になるためには？</div>			
2 買物活動に取り組む。			
(1) 商品を選ぶ際の視点を考える。	○ 商品を選ぶ際の注意点を確認しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 値段 ・ 品質 ・ 分量 	○ 活動の前に視点を明らかにすることで、本時のめあてを確認する。【 焦点化 】 ◎ 購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。 〈知・技〉 (ロイロノート)	○ 買物活動の前に動画や役割演技を見せ、本時の活動内容をつかませる。【 視覚化 】
(2) 買物活動をする。	○ 条件に沿って考えながら買物をしてみましょう。 例 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1000円以内。 ・ 余ったお金は返す。 ・ 商品を選んだ理由をしっかりと考える。 (消しゴム) <ul style="list-style-type: none"> ① 80円、少し消しにくい。 ② 110円、エコマークがついている。 ③ 180円、デザインがいい。 (ノート) <ul style="list-style-type: none"> ① 90円、全部で60ページ ② 100円、全部で70ページ ③ 180円、デザインがいい。 	○ 個人で考えて買ったものをペアで共有し、アドバイスタイムを設けることで考えを深めることができるようにする。【 共有化 】	○ 買物活動をする際、机間指導を行い児童の支援をする。
(3) 発表する。 (ペア→全体)	○ 買物で何を買って、その時何を考えたか発表しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 値段を比較して自分が大切だと思うものは少し良いものを選んだ。 ・ 必要な分量を考えて選んだ。 ・ 少し高かったが、持っているお金の範囲で環境を考え、マー 	○ 全体で共有することで、多面的な意見に触れさせる。【 共有化 】	

<p>3 振り返る。</p> <p>(1) 自分の買い物3か条を振り返る。</p> <p>(2) 感想を発表する。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	<p>クが付いている商品を選んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あとからお金が必要になると思い、安いものを選んだ。 <p>○ 友達の発表を聞いて、自分の「買い物3か条」を振り返ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持っているお金を無理に使い切らなくてもよい。 ・ 商品のことを知ったうえで買う。 ・ 先のことを考えながら買物をする。 <p>○ 買物活動をして、「買い物3か条」はしっかり守れていましたか？また、友達の発表を聞いた感想を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の買物の仕方を参考にしながら買物をする。 ・ 自分の「買い物3か条」だと無駄な出費が増える可能性があった。 ・ その時の気持ちや状況だけで買うのではなく、お金や先のことを考えながら買うようにする。 	<p>○ 発表をした後、自分の「買い物3か条」を変更する時間を取り、今後の生活に活かせるようにする。 【焦点化】</p> <p>◎ 物や金銭の使い方と買物について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。〈態度〉 (ロイロノート、発表)</p> <p>○ 家庭生活での実践の意欲や展望についても考えさせることで、実践的な力にする。 【焦点化】</p> <p>○ 友達の発表で新たに感じたことを大切にするため、自分の「買い物4か条」として追加させる。</p> <p>○ 実生活で今回の学習が活かされることを押さえる。</p>	<p>○ 重要な発言の見取りを行い、本時のまとめにつなげられるようにする。</p> <p>○ 再検討がうまくいっていない児童がまとめられるよう支援する。</p>
---	---	---	--

(5) 活動の実際

ア 児童の主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫

(ア) 題材の工夫

児童の身近にある物から商品を選んだ。商品選定や個々の商品設定において留意したことは次のようなことである。

- 身近な物の中でも筆箱や定規などではなく、消耗品に絞ることにした。その理由は、必ず商品を買って欲しいためであり、まだ使えるから買わないという選択肢を児童に与えたくないと考えた。
- 価格が大体同じくらいの物にした。一つだけ高い商品があると予算設定で金額を高くする必要が生じ、金銭的に余裕ができて買物活動をする際、値段に着目しづらくなってしまったと考えた。
- 食品は選ばなかった。食品にすると、賞味期限・消費期限や割引、家族の人数など考えることが増え、複雑化しすぎると考えた。
- 個々の商品設定に関しては、多様な視点から買物ができるように、値段や表示・マークの調整を行い、今まで学習してきた内容が本時に活用できるような情報を商品に組み込んだ。

(イ) 学習過程の工夫

○ 学習課題提示においては、児童の興味を引き付けるため動画を作成し、視聴させた。言葉だけの説明よりも、児童が場面を想像したり条件を理解したりすることが容易になった（写真1）。



< 写真1 自作動画を視聴する場面 >

○ ICT機器を活用して、買物の疑似体験を取り入れた。本時は、「自分の買い物3か条」を基に考えながら買物することや、細かい設定をじっくり見て欲しいことを伝えるために、T2による買物を例として見せることで、活動内容をより理解させることができた。児童は、今まで学習してきた視点や大切だと感じたことを基によく考えて買い、理由も説明できていた。

○ 振り返り場面では、自分の商品を選んだ理由と比べながら友達の発表を聞いたり、良い意見を取り入れて「買い物4か条」を作成したりした。また、他の児童が考えていなかった買い方や、選んだ理由を書いていた児童を意図的に指名し発表させることで、考えを深めたり広げたりすることができ、多面的な考え方につなげることができた。

イ 対話的で深い学びにつながる指導方法の工夫

(ア) ペア活動の充実

普段から座席の前後、左右でペアによる話し合い活動を取り入れている。本時も多面的な意見に触れさせるためにペアで話し合う活動を取り入れた。自分の考えた商品の買い方とその理由の発表練習につなぐこともできた。全体の場では発表しにくい児童も、ペアで買った物やその理由、友達の買い方の良い所などを発言することができた。

(イ) ICT機器の活用

一人一人の買物活動と学習の振り返りと自分の買い物4か条を「ロイロノート」を利用して全体で共有した（資料1）。

自分の買い物3か条
1か条値段をじっくり見て購入する
2か条賞味期限をじっくり見る。
3か条レシートを必ずもらう
4か条環境に優しいもの

選んだ理由

- ・僕がこの消しゴムにしたかという値段は高いけどエコマークがついていて環境に優しいから。
- ・僕がなんでこのノートにしたかという環境に優しいし全部で75ページもあるからです。
- ・僕がなんでこののりにしたかというはがれにくいしエコマークがついているから環境に優しいから。
- ・僕がなんでこのボールペンにしたかという値段は高いけど芯だけ40円で交換できるし環境に優しいからです。

4点 合計 530円

振り返り

今までの家庭科のお金で学んだりこれからしていきたいなあと思ったことは、もっと値段や賞味期限などをじっくり見てお金を払い終わったあとには必ずレシートを貰うことが大切だと思いました。でも僕が今まで勉強した中で一番大事だなあと思ったことは何でも好き勝手買っちゃいけないだなあと思いました。

自分の買い物3か条
1か条:買い物をする前にはまず、情報入手する。
2か条:買い物のときは、表示をじっくり見て、値段をできるだけ安く抑える。
3か条:消費期限・賞味期限をじっくり見る。
4か条:環境にいいものを選ぶ。

選んだ理由

すべて環境に良いものになりました。理由は、ボールペン:インクが無くなって芯だけ交換したほうが使い捨てのボールペンを買って、また一本買うよりも安いからです。

ノート:再生紙で作られていて、環境にいいし、ページ数が多いからです。

のり:のりはあまり使わないので、エコマークの付いたはがれにくい小さいサイズにしました。

4点 合計 630円

振り返り

ぼくは、生活を支えるお金とものという単元を勉強して、これからは前までは見ていなかった表示(賞味期限・消費期限・マークなど)を見たいと思いました。

自分の買い物3か条

- 1か条：いらぬものをついつい買わない。
- 2か条：賞味期限をよく見て食品ロスをへらす。
- 3か条：ぴったり代金を払ってお店の人を困らせない。
- 4か条：環境に優しいものを買う。

選んだ理由

私はこの4つの品物にしました。その理由は、消しゴムなら、消しやすいものがないかなあ。とも思っただけで2つについて10円安いから二個入りの消しゴムに。ボールペンは、エコマークがついていて芯を交換できるから、これに。のりは、小さいサイズだけど小さい筆箱にも入り、割れにくいからこれに。自学ノートは、環境に優しいものになりました。このような理由があります。

振り返り

私は、今日の学習をしてエコの大切さや、よく考えて買い物をする楽しさを知りました。私は、一人で買い物をする機会が少ないけど、大人になった時でもこの学習のことを思い出して買い物していきたいです。



自分の買い物3か条

- 1か条 値段、品質をよく見て買い物をする。
- 2か条 買う前に必要かを考える。
- 3か条 品質や安全性などを表示マーク、賞味期限、消費期限もよく見て買う。
- 4か条 分量もちゃんと見て自分の生活にあったものを買う。

選んだ理由

消しゴム一個の110円のを二個買うより、セットになっている方が安かったから。そして、エコマークがついていて環境に優しいから。ノートは値段はやはり少し高いけど、再生紙で作られていて環境に優しいのと、75ページあるのいいと思ったから。ボールペン220円は高いと思ったけど、使い切りではなく芯を交換すればずっと使えていいと思ったから。のり一りは使うときもあるけどあまり使わないイメージなので小さいサイズにしました。割れにくいし、エコマークもついているので二個買ったと思います。あと、キャラクターが書いている物があったけれどキャラクターの絵だけでも高くなってしまったので選ばないほうがいいと思いました。

振り返り

みんなの意見を聞いて、全部間違えはなくて、とてもいいなと思いました。私はこの学習で買い物物の仕組みや、値段、品質、計画などを知ることができて良かったです。本当にお買い物に行ったときも自分から進んで家庭科で学んだことを活かし、買い物をしたいと思います。



自分の買い物3か条

- 1か条 ちゃんと考えて買い物する
- 2か条 賞味期限、消費期限を見て買い物し、食品ロスを減らす
- 3か条 買ったものは、無駄なく最後まで大切に使う
- 4か条 予算や、分量、品質やその商品の情報などを見て、最後まで大切に使う

選んだ理由

(消しゴム) エコマークがついているので環境に優しいから。次に、もし消しゴムをついつい切ったときに今買っていたら、また買わずにすむから。(ノート) ページ数が多いため、通常より長く使える。次に再生紙で作られているため環境に優しいから。(のりは割れにくいから。次にエコマークがついているため、環境にやさしいから。(ボールペン) エコマークがついているので、環境に優しいから。次に、芯だけ40円で交換できて、いっまでも使えるから。

振り返り

今まで買い物の仕方や、買い物に関する色々なことを学んできて、買い物はすごく大事に思えました。今まで買い物のことはあんまり考えていなかったけど、これから買い物するときが多くなると思うから、買い物4か条を思い出して、いい買い物ができるようにしていきたいなと思いました。



自分の買い物3か条

- 1か条 よく考え、本当に必要なかを考える。
- 2か条 しっかり計算し、予算を考える。
- 3か条 表示をしっかり見て、買っても大丈夫か確かめる。
- 4か条 環境にいいものを選ぶ。

選んだ理由

ecoマークなど、環境に優しく、なるべく無駄のないように選びました。例えば、ボールペンは、使い切りのものだとボールペン自体はまだ使えるのに捨てたらお金の無駄にもなるから、芯を交換できるものを選びました。なるべく、値段が得なものを選びました。

振り返り

この単元の授業を通して、買い物で、しっかり選ぶことは大切だと思いました。今度買い物に行ったときは、食べ物の表示を見たり、衣服の条件があるか確かめたり、意識して買い物をしてみたいです。環境にいいものを買うことは、地球に優しいことだと改めて思いました。値段もなるべく安いもの、得なものを選んだりすることも、お金の節約になって、大事だと思いました。



< 資料1 授業の最後にロイロノートを使って全体で共有した場面 >



言葉だけの説明でなく、視覚的情報を取り入れた発表となり、より一層分かりやすい学習のまとめとなった。また、友達のお買物の仕方を画面で容易に見ることができ、多様な考え方を知ったり良さに気付いたりした(写真2)。

< 写真2 全体発表の場面 >

3 成果と課題

- 「買い物第4か条」(資料2)を授業の最後に考えたり、友達のかえ方に触れたりすることで、実生活での実践に生かしていこうとする意欲が高まった(資料3)。

- ・ 分量もしっかりと見て、自分の生活に合ったものを買う。
- ・ 環境に優しいものを買う。
- ・ 予算や分量、品質やその商品の情報などを見て、最後まで大切に使う。
- ・ 長く使える物を選ぶなど、無駄にならないものを選ぶ。
- ・ 自分に合った使いやすいものを買う。
- ・ エコマークなど環境について考えた商品に付いているマークをしっかり見て買う。

< 資料2 授業の最後に考えた買い物第4か条 >

- ・ この授業を通して、買い物でしっかり選ぶことは大切だと思いました。今度買い物に行った時は、食べ物の表示を見たり、衣服の条件が合っているかを確認したりして、意識して買い物をしてみたいと思いました。環境にいいものを買うことは、地球に優しいことだと改めて思いました。
- ・ 値段や賞味期限などをしっかり見て、お金を払い終わった後には必ずレシートをもらうことが大切だと思いました。今まで勉強した中で一番大切だなあと考えたことは、何でも好き勝手に買うんじゃないということです。
- ・ みんなの意見を聞いて、間違いはなくて、とてもいいなあと思いました。買い物の仕組みや、値段、品質、計画などを知ることができてよかったです。買い物に行った時も自分から選んで、家庭科で学んだことを生かして買い物をしたいと思います。
- ・ 様々な情報を整理して選ぶ必要があると思いました。
- ・ 安いものを買うことは節約になるけれど、値段ばかり気にしていたらダメで、長く使える物が結果的に節約になることを考えました。
- ・ 普段は、エコマークなどの表示を見ようとしてこなかったけど、買い物をする際に考えることとして次から意識したい。

< 資料3 振り返りでの児童の感想 >

- ペア活動やICT機器の活用により活発に発表が行われ、多面的な考え方に触れさせることができた。
- ICT機器を使うことで、買物の疑似体験ができることや教科横断的な学習を行いやすいことが分かった。また、児童の考え方が変化していく様子を一枚のシートにまとめることも分かった。
- 自分の考えを発表したり、他の意見を聞いて自分の考えを深めたりするだけでなく、出た意見をクラス全体で議論して深める活動を取り入れるようにしたい。
- タブレットの使用時間が授業の中で多くの時間を占めていたので、話合いや意見を出し合う時間を多くとるようにすることが大切である。
- 家庭ではお金のことをあまり話さないとされる。しかし、本時の導入で使用した動画の内容が金銭教育のきっかけにつながったので、お金の裏には家族の労働があることを理解させ、暮らしの中のお金についてしっかりと考えさせたい。

生活をよりよくしようとする実践的な態度の育成

—第6学年「まかせてね 今日の食事」の実践を通して—

新居浜支部

1 研究の視点

- (1) ユニバーサルデザインの視点を大切にした授業改善 — I C Tの効果的な活用の工夫—
- (2) 栄養教諭との連携
- (3) 家庭との連携

2 実践事例

- (1) 題材名 「まかせてね 今日の食事 ～家族が喜ぶ食事を作ろう～」

- (2) 目 標

- 1食分の献立の栄養バランスや買物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について理解するとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- 1食分の献立の栄養バランスや買物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 家族の一員として、生活をより良くしようと、栄養を考えた食事や買物、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

- (3) 題材設定の理由

- 本題材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説家庭科編の「B衣食住の生活」の(3)「栄養を考えた食事」における「ア(ウ)献立を構成する要素が分かり、1食分献立作成の方法について理解すること。」の事項に相当し、2学年を通して食生活について学ぶ最終の題材である。これまでに学習してきたことを生かして、よりよい食事のとり方や食事づくりについて考える。栄養を考えた食事について、食品の栄養的特徴及び1食分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、栄養のバランスや味付け、色どり、地産地消の考え、旬の食材、材料の価格などを考えた1食分の献立を工夫することができるようにすることをねらいとしている。食品の組合せや環境への影響などを考えて、「健康・快適・安全」や「生活文化」についての見方・考え方を広げることで、児童が将来にわたって、よりよい食生活を送ることができる実践的な態度を育みたい。
- 本学級の児童32名は、食に関する関心が高く、給食の時間は、苦手な食べ物に苦戦している児童も数人いるが、クラスみんなで完食するように努力しており、残食もほとんどない。また、「ゆでる」や「いためる」などの調理計画や調理実習などに対しても、真剣に取り組む姿勢が見られた。9月に実施した調理に関する意識調査では、「あなたは家族のために食事を作ってみたいですか。」という問いに対して、90%が「はい」と答えた。理由の多くは「家族が喜んでくれると、自分もうれしくなる。」「いつも食事を作ってくれているので、恩返しをしたい。」等であった。しかし、「家族のために1食分の食事を作れますか。」という問いに対しては、68%が「いいえ」と答えた。理由としては「家で調理をしたことがないから。」が一番多く、「おいしい食事を作る自信がない。」も複数あった。このことから、家族のために食事を作りたいと願う児童は多いものの、家庭で主体的に調理に携わっている児童が少ないことが分かった。
- 本時の指導では、まず、事前アンケートの結果から、家族が家庭で献立を立てる際の留意点などについての情報を知る。次に、栄養教諭から専門的な話を聞き、栄養バランスのとれた食事の大切さや味付け、色どり、地産地消の考え、旬の食材、食材の価格についても考えさせたい。また、献立を立てるときに主食、主菜、副菜、汁物の写真を入れたタブレットを使用し、それらのイメージを児童が膨らませやすいように支援する。次に、前時に班で決めていた主菜に対し、栄養バランスのチェック表などを使いながら、副菜、汁物の実を追加し、バランスの

よい献立になっているかを確認させる。その際、机間指導をしながら児童の栄養バランスのチェック表を見て、栄養のバランスが整わない場合は、食品を補ったり、もう一品副菜を考えたりするよう助言する。この活動を通して、家族が喜ぶ献立を立て、主体的に自分の家庭生活をより良くしていこうとする態度を育てていきたい。

(4) 指導と評価の計画 (全 10 時間)

時数	学習内容	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1 栄養のバランスなどを整えて、主食・主菜・副菜に汁物を加えて食品を組み合わせることを知り、献立の主菜を決める。		○ 1 食分の献立の栄養バランスなどについて、問題を見いだして課題を設定している。	
8 (1/8) 本時	1 1食分の献立を考えよう(1時間) ・献立に副菜、汁物の実などを足しバランス(栄養、味付け、色どり、地産地消、旬の食材、価格など)のよい献立を立てる。 2 材料を準備し、調理しよう(7時間) ・必要な材料と分量、用具、手順を調べて調理計画を立てる。 ・環境に配慮した材料や買い物の仕方について考える。 ・調理実習を行う。	○ 体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解している。 ○ 食品の栄養的な特徴などが分かり、料理や食品を組み合わせる必要があることを理解している。 ○ 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解している。 ○ 身近な物の選び方、買い方を理解するとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が、適切にできている。 ○ 環境に配慮した調理の仕方などについて理解している。	○ 1 食分の献立の栄養のバランスや買物の仕方、環境に配慮した調理の仕方などについて、様々な解決方法を考え、工夫している。	○ 栄養を考えた食事や買物、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ○ 栄養を考えた食事や買物、環境に配慮した生活について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
1	1 みんなで楽しく食事をするために工夫できることを考える。		○ 1 食分の献立の栄養のバランスや買物の仕方、環境に配慮した調理の仕方などについて、実践を評価したり、改善したりしている。 ○ 1 食分の献立の栄養のバランスや買物の仕方、環境に配慮した調理の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。	○ 家族の一員として、生活をより良くしようと、栄養を考えた食事や買物、環境に配慮した生活について工夫し、実践しようとしている。

(5) 本時の指導

ア 目標

栄養のバランスや味付け、色どり、地産地消、旬、食材の価格などを考えた1食分の昼食の献立を立てることができる。

イ 準備物

栄養に関する掲示資料、タブレット

ウ 展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (●評価)	
		T1	T2(栄養教諭)
1 家族や栄養教諭が食事を作る時に気を付けていることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ お家の人が食事を作るときに何に気を付けているかのアンケート結果を見よう。 ○ 栄養教諭の先生が給食の献立を立てるときに気を付けているポイントを聞いてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前にとったアンケート結果を提示し、献立作成で気を付ける点について、考えさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 献立の立て方の流れを理解できるようにし、主に栄養のバランス、味のバランス、色どりなどについて気を付けていることを伝える。
<p>家族が喜ぶバランスの良い昼食の献立を立てよう</p>			
2 献立を見直し、副菜、汁物の実を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班で決めた主菜に対し、副菜、汁物の実を決めバランスの良い献立を立てよう。(グループ) ・ 緑のものが足りないから、もう少し足そうかな? ・ もやしは安いから使ってみよう。 ・ きのこが旬だから入れよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解している。〈知・技〉(タブレット) ○ タブレットを使って栄養のバランスチェック表に食材を入れて確認し、栄養のバランスが良い献立になっているか確かめさせる。 ○ 栄養のバランスだけでなく、他のポイント(味付け、色どり、地産地消、旬の食材、価格など)も含まれているか確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各班を回り、バランスの良い献立となるよう支援する。 ○ いろいろな食品を組み合わせて食べることの意味や大切さを伝える。 ○ 栄養素の主な働きによる3つのグループの食品がそろっている事を確認させる。 ○ 栄養のバランスが整わない場合は、食品を補ったり、もう一品副菜を考えたりするよう助言する。
3 班で考えた献立を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班で立てた献立をタブレットを使って発表してみよう。 ○ 食品の組み合わせを工夫して、バランスの良い昼食の献立を考えることができたか振り返ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の班の献立や食材の良い点や修正した方が良いものについても発表させる。 ○ 次は自分たちが考えた献立の調理計画を立てることを伝える。 ● 1食分の献立の栄養のバランスなどについて、様々な解決方法を考え、工夫している。〈思・判・表〉(発表・タブレット) 	
4 学習のまとめと振り返りをする。			

(6) 活動の実際

ア ユニバーサルデザインの視点を大切にした授業改善
— ICTの効果的な活用の工夫—

(ア) 焦点化

授業の初めに電子黒板を活用して、家族が食事を作るときに何に気を付けているかという内容のアンケート結果を見せ（資料1）、献立を立てるときのポイントを焦点化できる導入にした。すると、栄養バランスだけではなく色どりや旬の食材を取り入れる視点も含めた献立にするという見通しが立てられ、家族が喜ぶ献立を作るねらいに焦点化できた。

お家の方のポイント
第1位：栄養バランス
第2位：価格設定
第3位：簡単なもの
その他：家族の好物
：味のバランス

<資料1 家族のアンケート結果>

(イ) 視覚化

献立を立てるポイントである「メニューの色どり」や「栄養バランス表」を見やすくするためにタブレット端末のアプリ「ロイロノート」（資料2）を使用した。それにより、出来上がりのメニューのイメージがわきやすかった。野菜の色どりなどは、タブレットの画面で写真を活用しているために視覚的に分かりやすく、副菜の献立を考えるとときに献立の編成作業が効率良くできた。タブレット画面に献立の品目が一品ごとに表示されており<資料3>、自分が構成したい品目をドラッグするだけで自分の献立のレイアウトが簡単にできるだけでなく、修正したいときはすぐに入れ替えができるので、作業時間の効率化だけではなく児童の思考が献立編成に集中できた。また、表示されている料理をクリックしたら、その料理に使用されている食材が栄養素別に表示されるので自分が立てた献立の栄養素の過不足が瞬時に分かるため（資料4）、献立の妥当性が分かりやすかった。

家族が喜ぶバランスの取れた昼食の献立を立てよう！ 名前()

料理名 根菜のきんぴら	料理名 具だくさんオムレツ
	
	
バランスチェック表 栄養バランス:☆☆☆ 味のバランス:☆☆☆ いろどり:☆☆☆ 旬の食材:☆☆☆	
主菜の材料 ・卵、玉ねぎ ・ベーコン、油 ・牛乳、バター ・にんじん ・ピーマン	副菜の材料 ・こんにゃく ・にんじん ・ごぼう ・れんこん ・砂糖、しょうゆ
みそ汁の実 わかめ、ねぎ、きのこ、里芋	
まとめ 主食、主菜を決め、副菜、汁物で使う食品の栄養のバランスを考えると献立を考えることができる。	
ふり返り 今回は、班のみんなで初めて献立を立てました。栄養バランスなどたくさんのごとに気をつけながらバランスの良い献立を立てるのはとても難しかったです。毎日、私たちのために美味しい給食を作ってくださっている調理員の皆さんに感謝です。家族のみんなにも、家で美味しいご飯を作ってあげたいです。	

<資料2 児童が考えた献立>

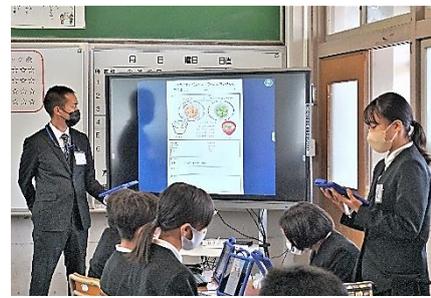
(ウ) 共有化

自分の考えや、立てた献立をロイロノートを使用してグループ内で共有し、「友だちの考えや献立」と「自分の考えや献立」を比較した。手元でグループ全員の考えや献立を見ることができ、画面上で並べて比較できるので、栄養のバランスなどを考えた一食分の献立についての考えを深めることができた（写真1）。日頃から自分の意見や考えを表現することが苦手な児童も、タブレットをみんなで操作する活動を通して積極的に授業に参加することができた。

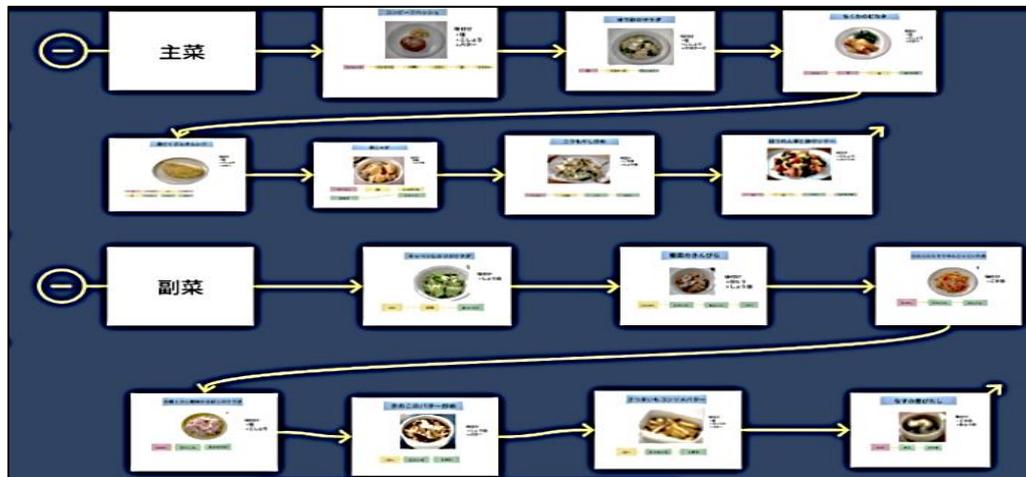


<写真1 共有している様子>

各班の献立のポイントなどを全体場で発表をする際には、発表者のタブレットの手元動画が全員のタブレットに映され（写真2）、その画像を見ながら意見交換をすることができた。また、全体の発表が終わった後にも、各班のメニューや献立のポイントがタブレットで見ることができるので、献立の見直しなどにも役立った。



〈写真2 発表の様子〉



〈資料3 用意した献立の品目〉

図2 栄養のバランスのチェック表

料理名	主にエネルギーのもとになる食品		主に体をつくるもとになる食品		主に体の調子を整えるもとになる食品	
	米・パン・めん・いもなど	油・バターなど	魚・肉・卵・豆腐など	牛乳・乳製品・小魚・海藻など	色のこい野菜	その他の野菜・きのこ・果物
主食(ご飯)	米					
主菜(具だくさんオムレツ)		油 バター	卵 ベーコン	牛乳	ピーマン にんじん	玉ねぎ
副菜(根菜のきんぴら)	こんにゃく			わかめ	にんじん	れんこん ごぼう
汁物(みそ汁)	さといも		みそ		ねぎ	きのこ
食品にふくまれる主な栄養素	炭水化物	脂質	たんぱく質	無機質(カルシウム)	ビタミンや無機質	

〈資料4 献立に含まれている栄養素の表示〉

イ 栄養教諭との連携を図った学習活動の工夫

児童は自分たちの給食を作ってくれている栄養教諭から専門的な話を聞き、栄養バランスのとれた食事の大切さや味付け、色どり、地産地消の考え、旬の食材、食材の価格について考えることができた（写真3）。また、給食の献立を立てる際に、栄養教諭が気を付けているポイントを知り、ポイントを基に積極的に意見交換をした。さらに、保護者向けの事前アンケートの結果〈資料1〉も踏まえて班でポイントを絞り込み、班で決めた主菜に対して副菜や汁ものを決定し、より良い献立に仕上げていた（資料5）。



〈写真3 栄養教諭の話〉

ウ 家庭との連携

事前アンケートで保護者へ「子どもに作ってほしい主菜、副菜ベスト3」を書いてもらい、その中から主菜・副菜のメニューを決めた。グループごとにその決められた品の中からメニューを選び、献立を立てた。中には決めた献立の調理法を家の人に聞いたり調べたりしている児童もいた。調理実習後、児童は、授業で立てた献立を家で作り、家族の人に食べてもらった。そのときの感想を学校に持ち寄って発表会を行った。家族の人が喜んでくれたという感想が多く、このような活動を通して、家族が喜ぶ食事を作ろうという意欲が増した。冬休みの自主学習でも家族のために料理を作った児童がおり、生活をより良くしようとする実践的な態度を養うことができた。

献立のポイント

1. 主菜の具たくさんオムレツは野菜がたくさん入っていて色どりがよく、家族が好きなメニューだというのがポイントです。
2. 副菜の根菜のきんぴらは、オムレツと味付けが異なり、旬の食品が入っているところがポイントです。
3. 味噌汁は、地域の農産物を作っているくださっている鴻上さんのネギを使うことがポイントです。旬の食材も取り入れました。

3 成果と課題

〈資料5 班で話し合ったポイント〉

- タブレット端末を使用することによって、出来上がりのメニューのイメージがわかりやすかったり、献立のレシピを自分たちで調べたりする活動ができ、意欲的に実習を行うことができた。
- インターネットなどを使用して旬の食材を調べることにより、食材には最も味の良い旬の時期が存在することを知ることができた。
- 献立作りや栄養素の学習をし、栄養教諭からの専門的な指導や支援を行ったことにより、主菜の栄養素を考慮した上での副菜、汁物を組み合わせることができるようになった。また、バランスの良いメニューの観点は、栄養素だけではないということも知ることができた。
- 自分たちの住んでいる地域のスーパーマーケットなどの価格情報をインターネットや広告などで調べることによって、身近な物の選び方、買い方を理解し、購入に必要な情報収集・整理が適切にできる児童が増えた。
- 「家族が喜ぶバランスの取れた昼食」の計画を考えることで、「家族にも食べてもらいたい」という家での実践意欲につながることができた。また、新鮮な野菜や地産地消の食材を調べて選んだことによって、食材を作った人の気持ちを大切にすることにもつながった（資料2：児童の振り返り）。
- 自分たちが班で決めた料理の調理法について、インターネット等を使って自由に調べたが、情報が多すぎて絞り切れない班がいくつかあり、あらかじめ調理法に関するおすすめwebサイトを児童に知らせて、時間短縮をしておいた方がよかった。
- ロイロノートの教材の作成にあたり、今後、加筆修正をしより良いものとしていく予定だが、作成にかかる時間が多く、教員側にも負担がかかるので、簡単に作成でき、さらにより良い教材の開発をしていきたい。
- 栄養バランスの良い食事の栄養素の主な働きによる3つのグループ分けの仕方と、児童がイメージしている栄養素の分け方の認識にズレがあり、小学校での栄養素の学習内容を確実に理解させるよう指導に工夫がいる。
- グループのメンバーの家族構成や好みが異なる場合があり、献立を立てる際に決めかねているグループがあったので、班編成の工夫改善が必要であった。
- 今後、調理実習については実施が難しい状況が続くことが予想される。密を避け、衛生安全に配慮しながら、児童に基礎的な知識・技能を習得させるための授業のあり方を研究していく必要がある。

自分の思いを豊かに表現する児童の育成

—第6学年「クリーン大作戦」の実践を通して—

松山支部

1 研究の視点

- (1) 基礎・基本の定着と活用を図る指導計画
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

2 実践事例

- (1) 題材名 「ほりえっ子 クリーン大作戦」

- (2) 目標

- 楽しく快適に生活するために、健康、快適、安全を考慮した住まいの清掃の仕方を理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- 日常生活における健康・快適、安全を考慮した住まいの掃除の仕方について問題を見いだし課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 学級や家族の一員として、生活をよりよくしようと、健康、快適、安全を考慮した掃除の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして生活を工夫し、実践しようとする。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童35名は、家庭科の学習を好んでいる児童が多く、意欲的に裁縫や調理の実習に取り組んでいる。しかし、学校内での実践で終わってしまっている児童が多く、学習したことを日常的に家庭で実践している児童は少ない。清掃活動については、奉仕活動に意欲的な児童が多いため学校生活での活動には熱心に取り組んでいるが、教師から指示された場所を、毎回同じ手順や方法で行うに留まっており、時間が余った時に自ら汚れている場所を見つけて掃除する児童は少ない。児童はこれまでの経験から、教室にはほこりなどの汚れが存在し、ほうきで掃いたり、ぞうきんで拭いたりすることできれいになることは知っているが、身の回りの掃除の必要性や汚れの種類や汚れ方、場所に合った掃除の仕方についての知識は十分ではない。また、家庭生活の様子を見ても、食事や洗濯に関する家庭の仕事に比べ、掃除に関する仕事を行っている児童は少ない傾向にある。そこで、実生活の中で進んで掃除を行おうとする態度を育てるためには、実感を伴って理解させる指導の工夫をし、実践する喜びを味わわせることが大切であると考える。
- 本題材は、住まいの清掃の仕方に関心を持ち、自分の生活の場所に目を向け、身の回りの掃除の必要性に気付き、汚れている場所や汚れの種類に応じて工夫して掃除しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。第5学年「整理・整とんで快適に」では、児童の身の回りの整理・整頓の仕方と工夫について学習している。そこで、既習内容を踏まえて汚れや場所に応じた掃除に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、より快適な住まい方を考え、掃除の仕方や用具等を工夫し実践する能力を育てたい。また、適切な方法の理解や実践を通して、学校全体がきれいになるように最高学年としてできることを考えるとともに、家庭への実践にもつなげていきたい。更には、洗剤を使わないでできる掃除の工夫や、使用済みの新聞紙や歯ブラシなどを再利用し、用具として活用する「環境に配慮した方法」について考えさせることで、SDGsにも目を向けさせ、身近な取り組みが国際的な課題解決につながっていくことにも気付かせたい。
- 指導に当たっては、まず、身の回りにはどのような汚れがあり、それらを放置しておくことで自分たちの生活にどのような影響があるかを調べる活動を通して、掃除の必要性に気付かせる。そして、汚れの種類や汚れる原因について考えさせることで、汚れを未然に防ぐための生活行動や汚れに応じた適切な掃除の仕方について理解させていく。掃除の仕方を考えさせる際には、児童にとって身近で必然性のある「自教室の学期末大掃除」という設定にすることで、学習

の必要感を持たせ、意欲が高まるようにする。

本時は、場所に応じた掃除の手順について考え、学級の掃除マニュアルを作成する場面である。まず、「効率よくきれいに」をキーワードに、教師が示した場所をどのような順番で掃除すると短時間できれいに掃除することができるか考えられるようにしていく。その際、教室の平面図を活用してシミュレーションをすることで結果を視覚化させ、「高い所から低い所へ」の要素に気付かせるようにする。次に、それぞれの場所をどのような手順と方法で掃除すればよいかについて、同じ課題を持つグループで話し合わせる。そこでは、事前に個人で調べたことを情報交換した後に、集まった情報を精選させながら、よりよい手順や方法を考えさせる。話し合いの時には、タブレット端末の思考ツールを活用することで児童が思考を整理しやすくする。そして、学級全体で考えを共有しマニュアルを完成させる。出来上がったマニュアルから、効率よくきれいにするためには、「掃き掃除から拭き掃除」「場所や汚れにあった用具の使用」の要素も必要であることを気付かせ、掃除に大切な三要素について押さえるようにする。

単元終末では、これまでの学習を生かして教室や家庭で活動の実践を行う。実践を通して気が付いたこと、友達の実践のよい所やアドバイスを伝え合うことで、今後のよりよい住まい方への実践意欲が更に高まるようにしていきたい。

(4) 指導と評価の計画

時	学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 汚れがあるとどのような影響があるかを考えることで、なぜ掃除をしなければならないかについて話し合う。 ○ 身の回りにはどのような場所にどのような汚れがあるのか調べる。 	健康で快適に生活するために、住まいの掃除が必要であることを理解している。(ワークシート)		学級や家族の一員として、生活をよりよくしようと掃除の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(観察、ワークシート)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りの汚れを種類ごとに分け、汚れる原因、汚さない生活の仕方、汚れを取り除く方法について考える。 		健康・快適で環境に配慮した住まいの掃除の仕方について問題を見いだして課題を設定している。(ワークシート)	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康・快適で環境に配慮した掃除の方法について調べる。 			学級や家族の一員として、生活をよりよくしようと、掃除の仕方について工夫し、実践しようとしている。(タブレットPC)

4 (本時)	○ 教室の汚れている場所について、掃除の手順や方法に着目して、適切な掃除の仕方について考える。		場所や汚れの種類を手掛かりにして、効率のよい掃除の手順や方法について考えている。 (発言、ワークシート)	
5	○ これまでの学習をもとにして家庭の汚れている場所について考え、掃除するための実践計画を立てる。		住まいの掃除の仕方について問題を見いだし、課題を設定し、様々な解決方法を考えている。 (ワークシート)	
6	○ 掃除の実践を発表し合い、よいところやアドバイスを伝え合うことを通して、今後のよりよい住まい方について考える。	汚れている場所や種類に応じて適切に掃除をしている。(発表)	ワークシートで実践を評価・改善し、課題解決に向けた一連の活動について考えたことを分かりやすく表現している。(発言)	実践した住まいの掃除の仕方について課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 (ワークシート)

(5) 本時の指導

ア 目標 場所や汚れの種類を手掛かりにして、効率のよい掃除の手順について考えることができる。

イ 準備物 [教師] タブレット端末、教室平面図、短冊、掲示物「汚れの種類と掃除方法」
[児童] ワークシート、タブレット端末

ウ 展開

時間	学習活動	主な発問 (○) と児童の意識の流れ (・)	○指導上の留意点 ◎評価
1	1 本時の学習課題を確認する。		○ 箇所と時間について話題にすることで、効率の重要性に気付かせる。
教室を効率よくきれいにするためには、どのような手順や方法で掃除すればよいだろう。			
5	2 効率のよい掃除の順番について考え、その理由を話し合う。	○ 教室を効率よくきれいにするためには、どのような順番で掃除したらよいですか。またその理由も考えましょう。 ・床は高い所のごみが落ちるから、最後に掃除した方がいいね。 ・黒板はチョークの粉が飛ぶから最初に掃除した方がよさそうだね。 ・テレビの周りやロッカーは場所も離れているし、どちらを先にしてもよさそうだな。	○ 選んだ順番で掃除したらどうなるか、教室の平面図を活用してシミュレーションすることで、結果を視覚化できるようにする。

30	<p>3 場所に応じた掃除の方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ (ほりほりトーク) 	<p>○ それぞれの場所をどのような方法で掃除したらよいでしょう。</p> <p>【窓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほこりは軽くはたき落とし、窓を拭くときは新聞紙を使って拭いた後に棧を歯ブラシで掃除する。 <p>【ロッカー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーは、上や中のほこりをほうきで取ってから拭き掃除をする。 <p>【テレビ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビのほこりを乾いた布で落としてから、台を濡れた布で拭く。 <p>【黒板】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板は上のほこりを落とし、板書部分を黒板消しできれいにして、溝の掃除をする。 <p>【床】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床は掃き掃除をしてから、拭き掃除をすることで細かいごみまでとる。 	<p>○ 事前に調べたことを持ち寄って、同じ場所担当のグループで情報交換や話し合いを行うことで意見が深まるようにする。</p> <p>○ 既習の「汚れの種類と掃除方法」について提示しておくことで、児童が思考する際の手掛かりになるようにする。</p> <p>○ タブレット端末の思考ツールを活用させて話し合うことで、児童が考えを整理しやすいようにする。</p> <p>○ 各グループで意見がまとまったら、教師用タブレット端末に代表者のデータを提出させ、教師がマニュアルをまとめるようにする。</p>
4	<p>4 効率のよい掃除の仕方についてまとめる。</p>	<p>○ 効率よく掃除するための、掃除の順番や方法についてまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>効率よく掃除するには・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い所から低い所に向かってする。 ・掃き掃除から拭き掃除の順番でする。 ・場所や汚れに合った用具を使う。 </div>	<p>○ グループごとに方法とその理由を発表させ、学級全体で比較していくことで、意見を集約できるようにする。</p>
5	<p>5 学期末大掃除で頑張りたいことを考える。</p>	<p>○ 学期末の大掃除ではどんなことを頑張りたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番に気を付けて掃除したい。 ・汚れている場所の広さや汚れの種類に合った道具を使いたい。 	<p>◎ 場所や汚れの種類を手掛かりにして、効率のよい掃除の手順や方法について考えている。 (発言、ワークシート)</p>

(6) 活動の実際

ア 基礎・基本の定着と活用を図る指導計画

(ア) 日常生活の中から課題の設定

本題材を学習する前に、家族へ掃除についての調査を行った(写真1)。いつ、どの位の頻度でどここの場所を掃除しているのかをロイロノートの録音、録画機能を用いて取材し、題材の導入時にクラスで共有し合った。その中でキッチン、洗面所、リビング、トイレなどが頻繁に掃除を行う場所として挙げられた。その理由として、そこは家族が多く使用する場所であることや衛生的にしておかないと健康被害につながる場所であることなどの意見が出て、掃除の重要性について気付くことができた。そこで、自分たちが日々過ごしている教室の中でもそのような場所や箇所がないかを考えさせることで、本題材の課題へとつなげていった。

次に教室の中のどこに、どのような汚れがあるのかを調べる活動を行った（資料1）。黒板周辺や床は予想通りだったが、窓や窓の溝、ロッカーの中なども汚れが多いことを知り児童は驚いていた。ほぼ毎日掃除を行っている学校でも掃除が必要であることに気付くことができ、自分事として課題を捉えることができた。

学習後の実践の場として学期末の大掃除を設定していたが、家庭でも実践を行ったことにより、家庭科における知識・技能の定着にもつながった。



〈写真1 家庭で見つけた汚れている場所〉

教室内で掃除すべき場所を見つけ、それらの清掃方法について調べよう。				
場所	汚れの種類	清掃の仕方	使う道具	ポイント
（例）廊下	ほこり 砂 靴などのあと	はく ふく こする みがく	ほうき ぞうきん スポンジ 歯ブラシ	かべの汚れ にも注意 すみにごみ がたまる
テレビ周辺	ほこり チョークの粉	はく ふく	ほうき ぞうきん モップ	テレビの裏 にごみか たまる
窓	手のこもったあ しのほこり 砂 ほこり	ふく みがく	ぞうきん 水	
ロッカー	ほこり	はく（お掃除） ふく こする	ぞうきん	
黒板	チョークの粉	はく ふく	ぞうきん ほうき	黒板の裏に チョークの粉 がたまりやす
床	ほこり 砂 紙 かす	はく（お掃除） ふく みがく	ぞうきん ほうき モップ	はしのあと がたまりやす

〈資料1 児童のワークシート〉

(イ) 学校行事や他教科との関連

本校では、普段の清掃活動を縦割り班で行っている。この題材で学習した事項は普段の活動でも生かされるが、6年生は班長として全体の指示を出しながら掃除をしているため、集中して掃除に取り組むことは難しい。各学期末に行われる大掃除は、縦割り班での掃除と各クラスで行う掃除と時間が区切られている。そこで、各クラスで行う大掃除の時間を使ってこの題材で学習したことを実践する場とした。学習した通りに実践を行い、自分の担当の場所がきれいになったことで気持ちよく2学期を終えることができた。また、3学期の総合的な学習の時間「卒業プロジェクト」の中で、お世話になった学校をきれいにして卒業したいという意見が出てきた。児童の主体的な学びを生かすために、体育館や各校舎の玄関、家庭科室などの特別教室を6年生で分担して掃除を行った。実践後、学校にある道具だけでは掃除がしづらかったので家から道具を持って来て自主的にもう一度掃除を行ったり、どのように掃除すればいいのか友達同士でアドバイスし合ったりと掃除に対しての関心が高まった。

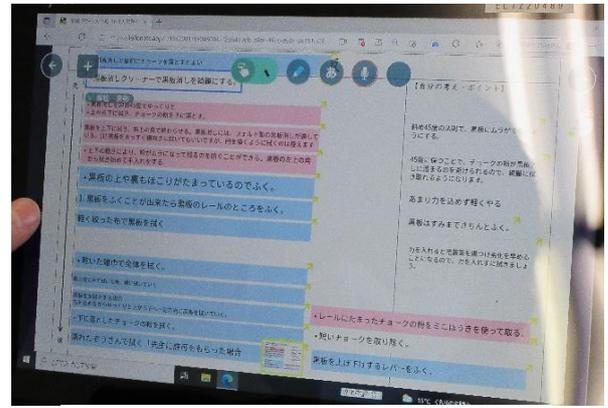
イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

(ア) 課題別グループでの情報交流

本時は掃除の手順を場所にに応じて考え、学級のマニュアルを作成する場面である。事前にそれぞれの場所（テレビ周辺、窓、ロッカー、黒板、床）の掃除の仕方について各自調べ学習を行っているが、より課題を明確にするために、掃除をしたい場所ごとにグループを作って話し合わせた（写真2・3）。同じ課題を持った児童が話し合うことで、調べてきたことに対し質問をしたり、意見を言ったりと話し合いが活性化していた。また、全体で練り合う場面でも、場所は異なるが掃除の仕方が似ている、手作りでもよりよい道具を作り出すことができることに驚きの声上がるなど掃除の奥深さに気付くことができた。



〈写真2 話し合いの様子〉



〈写真3 児童のタブレット端末〉

(イ) 思考ツールの活用

ロイロノートを活用し、掃除のこつや掃除道具の使い方など、各自が調べたことをグループで発表し合った。その際、ロイロノートの共有ノートの思考ツールにカードを集約して、掃除の順番をテキストカード（ピンクのカード）を動かしながら話し合った（資料2）。順番が決まったら掃除のこつや気を付けることなどをカード（青、白のカード）で付け加えていった。思考ツール内でカードの色分けをすることにより、視覚的に分かりやすく、同じグループの人も考えが一目で分かるため、理解度が増し、児童は積極的に話し合いに参加することができた。また、共有ノートにすることで、瞬時にマニュアルができあがっていく様子が分かり、児童の達成感が高まった。

テレビ周辺	
<p>先 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濡れていない雑巾で空拭きしホコリを下に落とす。 テレビ台をからぶきする。 ほこりをほうきではく。 ・ホコリをウキで1か所の隅め回収する はたきで、壁に付いているほこりを落とす。 雑巾にアルコールスプレーをかけて拭く ・床を濡れた雑巾やスポンジできれいにふく 網棹にアルコールのスプレーをかけてリモコンをふく 絡まっている同線にあるほこりは、濡かに同線を持ってもらってほこりはらう。 ・軍手でプラグなどを掃除する 仕上げにもう1度拭く <p>↓ 後</p>	<p>【自分の考え・ポイント】</p> <p>ホコリを床に落とす ほうきや雑巾などは、誰がやるか決めておく。 念のために、テレビの上のところもほこりがないか見ておく。</p> <p>ホコリを残さないように テレビを傷をつけないように ピカピカに拭くように心がける</p> <p>細かい所も丁寧に 残ったところがないように</p>

〈資料2 グループの思考ツール〉

3 成果と課題

- 家庭生活や学校生活など日常生活の中から課題を設定することにより、自分事としての課題へ変換することができた。また、学校だけでなく家庭でも実践を行うことで、家庭科における知識・技能の定着にもつながった。
- 家庭科で学習したことが学校への愛着心へとつながり、総合的な学習の時間「卒業プロジェクト」へつなげることができた。児童の主体的な学びを生かす場としても活用できた。
- 同じ課題を持った児童が集まって話し合うことで、調べてきたことに対して質問をしたり、意見を言ったりと話し合いが活性化した。全体で練り合う場面でも、自信を持って発言することができた。
- 思考ツールを用いることにより、視覚的に分かりやすく、また同じグループの人の考えが一目で分かるため理解度が増し、積極的に話し合いに参加することができた。共有ノートにすることで、瞬時にマニュアルができあがっていく様子が分かるため、児童の達成感が高まった。
- 課題グループの人数が7人と多かったため、全員の児童が発言ができないグループもあった。同じ課題の中で2つに分けるなど、児童の意見がもう少し反映されるようにすればよかった。
- 大掃除では学期末の実践になり学習後から期間が空くので、学級活動などの時間を使って実践する場をなるべく早く確保した方がよい。
- 家庭に情報発信したり、日常生活の実践への協力を依頼したりするなど、家庭との連携を図っていくことで、住生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度をさらに育成していきたい。

生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成

— 第5・6学年「食べて元気」の実践を通して —

上浮穴支部

1 研究の視点

- (1) 基礎・基本の定着と学んだ知識・技能を生活で活用するための指導の工夫
- (2) 「よりよい生活」を探求する学習活動の工夫

2 実践事例

- (1) 題材名 「食べて元気！ご飯とみそ汁」
- (2) 目標

- 食事の役割と日常の食事の大切さ、我が国の伝統的な配膳、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方、体に必要な栄養素の種類と主な働き、食品の栄養的な特徴、食品を組み合わせるとる必要があることについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

(3) 題材設定の理由

- 本学級は、5年生3名、6年生3名の合計6名である。AB年度方式で家庭科の授業を行っており、家庭科学習の経験がない5年生と1年間家庭科学習を経験している6年生が同じ内容を履修している。そのため、6年生にとっては既習事項でも、5年生にとっては初めて学ぶことばかりである。知識や技能に大きな差があり、個別最適な授業改善を行っていく必要がある。児童は、食に関する興味・関心は高く、給食での残食もない。5月に行ったアンケートでは、家庭科学習が「大変好きである」と全員が答えている。しかし、食に関わる手伝いの経験は、食器の用意や片付け程度で、家庭での調理経験がない児童が大半であることが分かった。また、調理器具や用具の取り扱いに不安を持っている児童もおり、基礎的な知識や技能を習得させ、一人一人が自信を持って調理するとともに、自分と家族の食生活をよりよくしようと工夫する実践意欲を持たせることが必要であると考えた。

- 本題材は、日本の伝統的な食事である米飯とみそ汁の調理の学習を通して、食事の役割や栄養について理解し、調理の基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、自らの食生活をよりよいものにするために課題意識を持って実践する態度を養うことをねらいとしている。

近年は、食生活の多様化に伴い、栄養の偏り、朝食欠食、孤食など食生活における様々な課題が挙げられる。また、米の消費量の減少に見られるように、米飯とみそ汁を食べる機会が少なくなっている児童もいる。日常食である米飯とみそ汁は、主菜・副菜を組み合わせることにより、一食で栄養バランスを整えられる理想的な献立となる食事である。また、水の分量やだしの取り方、調味料の使い方など調理の基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることのできる題材である。

そこで、本題材の学習を通して、日本の日常食である米飯とみそ汁のよさに気付かせるとともに、よりよい食生活にするための調理計画や調理方法を工夫し、実践していこうとする態度を育てたい。また、栄養素の体内での主な働きについて理解し、食品を組み合わせることで、栄養のバランスがよい食事になることに気付き、日常生活の中でも栄養のバランスを意識して食事をとろうとする実践意欲の向上につなげたい。

- 指導に当たっては、モデル献立と自分の毎日の食事の献立と比較させることで、児童自身の食生活に対して目を向けさせ、食生活において大切なポイントは何か、課題は何かを考える手掛かりとする。基本の食事の形や食品の種類、数、材料の価格や量、献立としての栄養バラン

スや好みなど、毎日の家庭生活の食事と照らし合わせ、考えを深め、興味・関心を高められるようにする。

また、「わが家のみそ汁・ご飯」についてインタビューを行い、家庭ごとに米飯の硬さや、みそやだしの種類、材料に違いがあることに気付かせ、米の炊き方やみそ汁の作り方の学習へつなげる。「米からご飯に変える」「だしのうま味、風味を味わう」という体験を通して、調理の技能を身に付けさせるとともに、その知識や技能を活用し、おいしく食べるために、安心・安全の視点を取り入れた調理計画や調理の仕方を考えることができるようにする。どのようにしたら、よりよい生活に結び付くか課題意識を持たせるとともに、体験的な活動を充実させることで、日常生活で活用しようとする実践的意欲を高めたい。

よりよい生活を送るために必要な栄養素の種類と主な働き、食事の役割についても理解させた上で、米飯とみそ汁の調理実習を行う。

さらに、家庭生活でも実践できるように、トライカードを作成させることで、学習内容を実生活と結び付けて考え、よりよい食生活を創造することができるようにしたい。

(4) 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1 2	毎日の食事を見つめよう ・モデル献立と自分の朝食を比べて気付いたことや課題について話し合う。 ・食事の役割について話し合う。 ・和食の基本の形について理解する。	・食事の役割が分かり、食事の大切さと米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解している。(発言・観察・ワークシート)	・日常の食事の仕方や米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。(発言・観察・ワークシート)	・伝統的な日常食である米飯とみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。(発言・観察・ワークシート)
3 4	わが家のご飯の作り方 ・家庭で調べた米飯の炊き方について発表し、課題を見付ける。 ・水加減や火加減を変えて米飯を炊き、食べ比べる。 ・わが家のご飯はどの炊き方に近いか考察し、おいしい米飯の作り方をまとめる。	・米飯の調理方法を理解するとともに、適切にできる。(観察・ワークシート)	・おいしく食べるために、米飯の調理の仕方について問題を見だし、課題を設定している。(観察・ワークシート)	
5 6	わが家のみそ汁の作り方 ・家庭で調べたみそ汁について発表し、課題を見付ける。 ・だしの味比べを行い、だしの大切さについて気付く。 ・だしのとり方、材料の切り方や入れる順序、みその特性を理解する。 ・わが家のみそ汁は、どのように作るか考察し、おいしいみそ汁の作り方をまとめる。	・だしの種類やとり方、みそ汁の作り方を理解するとともに、適切にできる。(観察・ワークシート)	・材料や好みに合わせただしのとり方やついて考え、工夫している。(観察・ワークシート)	
7 8	食べて元気になる食事 ・食品に含まれている五大栄養素と栄養素の体内での働きを知る。	・食品の栄養的な特徴が分かり、栄養素の種類と主な働きを理解してい		・栄養バランスや好みを考え、よりよい食生活にするために活動を振り

	・モデルみそ汁とオリジナルみそ汁の課題を話し合う。	る。(小テスト・タブレット)		返ったり、改善したりしようとしている。(観察・タブレット)
9	ご飯とみそ汁をつくろう① ・米飯とみそ汁が同時に仕上がるように調理計画を立てる。 ・みそ汁の材料の切り方や入れる順番を考える。	・米飯とみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、適切にできる。 ・安全で衛生的に調理器具や食器を取り扱うことができる。(観察・ワークシート)	・健康に美味しく食べるための調理計画や調理の仕方について考え、工夫している。 (観察・ワークシート)	・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理について課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 (発言・観察・ワークシート)
10 11	ご飯とみそ汁をつくろう② ・実習計画を基に、米飯とオリジナルみそ汁を調理する。 ・学習を振り返る。		・健康に美味しく食べるために調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。 (観察・ワークシート)	
家庭	トライカードを作ろう ・学んだことを活用し、家庭で実践する。			

(5) 活動の実際

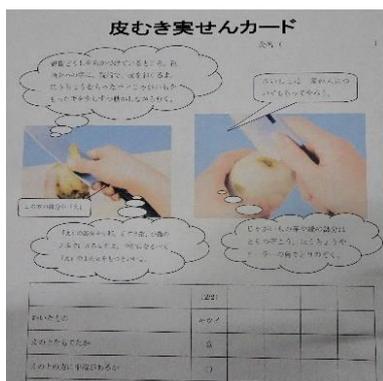
ア 基礎・基本の定着の工夫

(ア) スキルアップタイムの設定

5年生と6年生の調理技能に差があること、調理に対する不安を持っている児童の割合が多いことを踏まえ、基礎的技能の習得のためのポイントをまとめ、個別に指導した。また、技能向上のためのポイントをまとめたワークシートを配布した(資料1)。特に包丁や火の扱いについては、安全面や技能向上のポイントを視覚化したチェックリストを作成し、自己評価できるようにした。

また、業間や昼休みに「スキルアップタイム」を設定し、包丁の扱いを個別指導した。技能に不安を抱えている児童に配慮し、野菜の切り方や皮むきの個別指導を継続することで、調理に対する不安を解消するようにした(写真1)。すでに1年間家庭科を経験している6年生と初めて挑戦する5年生とでペアをつくり、アドバイスしながらスキルアップタイムに取り組ませた。

「親指はハの字にして」「指の位置はもっと前にして」など、ワークシートのチェック項目を確認しながら、具体的なアドバイスをする様子が見られ、基礎・基本の定着につながった。



<資料1 ワークシート>

<写真1 スキルアップタイムの様子>

(イ) ICTの活用

これまで、教師が食材の切り方を児童の前で実践していたが、児童の立ち位置によっては、見えづらく、場所を変えて何度か実演することが多かった。そこで、技能習得の際、食材の切り方や皮のむき方の手本動画を見せるようにした。また、スキルアップタイムに個人の技能を動画で撮影し合い、包丁の扱い方を自分で確認し、振り返りを行った(写真2)。手本動画と自分の動画を客観的に見比べることで、改善点に気付かせるようにした(写真3)。

また、オリジナルみそ汁の調理実習では、個人の材料や切り方が違うことも考え、予め、録画した調理行程を事前に見せ、自分が何の材料をどのように切るかについて具体的なイメージを持たせるようにした。さらに、調理にかける時間や手順の説明の時間を短縮することができ、安全面に配慮しながら主体的に実習に取り組むことができた。



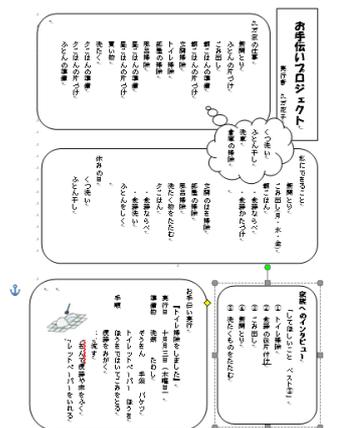
〈写真2 動画撮影をする様子〉



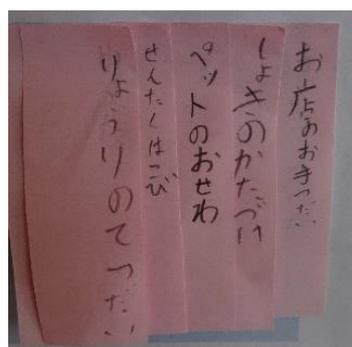
〈写真3 動画撮影での振り返り〉

(ウ) 学びを生かす場の設定

学んだことを家庭で生かすために、「手伝いプロジェクト わが家のすてき大作戦」として、家庭内で役割分担して実践したり、手伝ったりしたことを日々付箋で貼り付け、家庭で実践する意識を高めた。家庭内の仕事にはどのようなものがあるか、またその中で自分にできることは何か、家族がしてほしいことは何かについてまとめたシートを配布し(資料2)、自分が実践したことを付箋(資料3)にまとめ、掲示物コーナーに貼付した(写真4)。各自の実践として可視化したことで、友達が実践した手伝いに刺激され、今まで経験したことがなかったことに挑戦する児童もいた。また、自他の取組を知る活動を継続し、家庭と連携することで、手伝いを日常的に行う意識が高まった。



〈資料2 ワークシート〉



〈資料3 手伝いの記録〉

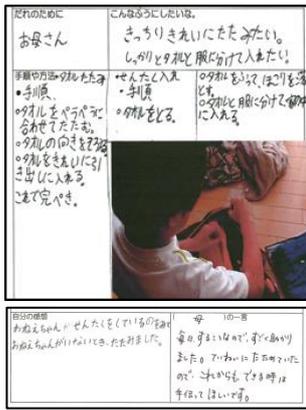


〈写真4 掲示物〉

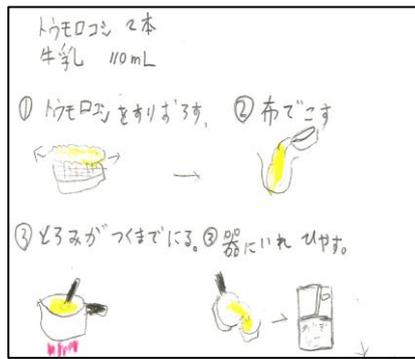
次に、長期休業中にトライカードを配布し、家庭で実践したことをまとめ提出させた。家族の一員として、生活をよりよくしようとする意欲を持たせるため、誰のために、どんな仕事ができるか、どのような仕事にしたいか、相手意識・目的意識を持たせるようにカードに記入させた(資料4)。

トライカードには、家族からのコメントを書いてもらう欄を設けた。家庭と連携することで、児童の手伝いに対する意欲化を図ることができた。また、保護者に理解・協力を得ることにつながり、課題となる安全面に配慮した実践が実現した。特に、食に関わる仕事については、包丁や火の扱いなど危険を伴うものが多いため、家庭の協力を得ることで、身に付けた技能を生かし、調理に挑戦する児童もいた(資料5)。

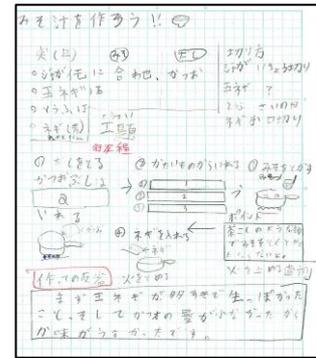
「手伝いプロジェクト」や長期休業中のトライカードの実践、授業での調理実習を通して、自信を得た児童の中には、自主学习で米飯とみそ汁の調理を行い、自主学习ノートにまとめて、提出した児童もいた(資料6)。



〈資料4 トライカード〉



〈資料5 食領域の手伝い〉



〈資料6 自主学习ノート〉

さらに、学んだことを日常生活で生かすために、給食委員会と連携し、日々の給食の献立とそれらに含まれている材料や栄養について伝える動画を作成した。給食前に全校で動画を視聴し、食に関する意識を高めるようにした(写真5)。



〈写真5 給食委員会と連携した動画の撮影〉

イ 「よりよい生活」を意識した課題の設定と学習活動の工夫

(ア) 家庭生活を意識した学習課題の設定

食生活を考える際、家庭生活を抜きにして考えることは難しい。それぞれの家庭の課題を考えるとともに、好みやライフスタイルに合わせることも食生活の重要な要素の一つである。米飯やみそ汁についても、食の好みは各家庭によって違う。それぞれの家庭の米飯の硬さやみその種類、材料についての調べ学習を行い、家庭生活を意識して考えさせるとともに、「健康でおいしく食べるために」 どうしたらよいか考えて、課題解決できるように課題設定を行った。また、課題を考える際に教師が準備したモデル献立と比較し、考えるポイントを明確にした(写真6)。

米飯については「わが家のおいしいご飯」に近付けるための水加減はどうしたらよいか、「わが家のおいしいみそ汁」を作るためのだしづくりはどのような方法で行うのか考え、実践させるようにした。さらに、「わが家のご飯とみそ汁」をよりよくするために必要なことについても考えさせ、調理実習を行った(写真7)。



〈写真6 モデル献立との比較〉



〈写真7 わが家のご飯とみそ汁の実習〉

(イ) ICTの活用

児童の考えをまとめたり、可視化したりする場面で、タブレット端末を使用した(写真8)。個人の考えをまとめる時間を確保し、タブレット端末のワークシートにまとめたものをペアやグループ、全体で共有することで、他者との共通点や違いを見付け、考えを発展させなが

ら課題を解決させた。タブレット端末で可視化したことで、個人やペア・グループの課題が明確になり、「よりよい生活にするためにどうしたらよいか」について具体的に課題を解決する方法を考えたり、話し合いをしたりすることができた(写真9)。



〈写真8 タブレット端末の使用〉



〈写真9 グループでの話し合い〉

(ウ) 振り返り活動の充実

単位時間で分かったことやできるようになったこと、新たに発見したことをタブレット端末にまとめさせ、毎時間発表し、次時に生かしたり、家庭生活に生かしたりできるようにした(写真10)。「楽しかった、できるようになった」という振り返りではなく、「何が分かったか、課題に対してどうすれば解決できたか、よりよく生活するためにどうすればよいか」など、本時の学習について、具体的に振り返らせることで、本時で何を学んだか実感でき、学習内容を定着させるとともに、次時への意欲を高めることができた。



〈写真10 振り返り活動〉

3 成果と課題

- 少人数という特性を生かして、スキルアップタイムを設定し、個別の課題に合わせて、技能の習得を図ったことで、児童が自信を持って調理実習に臨むことができた。
- 「手伝いプロジェクト」や「トライカード」を活用し家庭と連携することで、自主学習でみそ汁の調理を行ったり、米飯を炊いたりする児童が出るなど、授業で学んだことを生かして、家族の一員として自分ができることをしようとする実践意欲が向上した。
- ICTを活用することで、考えを深めたり、発展させたりする時間が十分に確保できるとともに、効率的な学習を行うことができた。また、手本と自分の技能を比較するなど客観的に自分の技能を確認し、改善することで、主体的に学習に取り組むことができた。
- 給食委員会と連携し、食材や栄養素など食生活と関連する活動を取り入れたことで、栄養素に関する基礎的知識や地産地消に対する意識が高まった。
- 振り返り活動を充実させることで、何ができたか、必要ななど自己の課題を明確にして表現したり思考したりすることができる児童が増えた。
- 学年の知識や技能の差をなくすために、家庭と連携しながら授業をプランニングしていく必要がある。
- 学年ごとの到達目標・達成目標について検討するために、児童の実態把握を十分にすることがある。
- 生活をよりよくしようとする実践意欲を高めるために、課題の設定方法やワークシートを工夫・改善したい。

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

—第5学年「生活を支えるお金と物」の実践を通して—

西予支部

1 研究の視点

- (1) 対話的で深い学びにつながる指導方法の工夫
- (2) 学校と家庭をつなぐ学習展開の工夫

2 実践事例

- (1) 題材名 「生活を支えるお金と物」

- (2) 目標

- 物や金銭の大切さや計画的な使い方、選び方や買い方、消費者としての適切な行動など身近な消費生活について理解するとともに、必要な情報を活用し、消費生活と環境との関わりを考えて、物の使い方や買い方ができる。
- 身近な消費生活の課題を設定し、その解決に向けて情報を活用したり持続可能の視点から消費行動を考え、判断したりし、その結果を評価・改善する活動を通して、消費者としてのよりよい行動について考えたり工夫したりして解決する。
- 物や金銭の使い方と買物について、課題解決に向け主体的に取り組んだり、改善したりして、生活を工夫し実践する。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童12名（内、特別支援学級児童1名）は、家庭科が好きで、意欲的に学習に取り組むことが多い。買物に関するアンケートの結果、12人中8人の児童は1人で買物をした経験があるということが分かった。買物の内容は、食品や生活用品、文房具や雑貨などであった。また、買物の際には、大きさや形、新鮮さの確認をしたり、消費（賞味）期限や値段をチェックしたりしながら買物をしていることも分かった。買物の前には、メモをしたり所持金の確認をしたりと、児童なりに効率的な買物の方法を考えながら買物をしている様子である。また、レジ袋が有料になったこともあり、マイバッグを持参して買物をする児童が多いが、環境の視点に立った行動であるかについては不明である。
- 本題材では、お金の収支について考え、収入は家族が働くことで得られる限りあるものであり、収支のバランスを取ることが大切であることを学んでいく。また、買物をするとは、お店と売買契約を結ぶことであり、簡単に返品ができない場合があることを理解させたい。買物を計画する際は、これまでの経験を基に、値段や品質、分量などはもちろんのこと、環境問題や食品ロス、SDGsや地産地消といった様々な視点に目を向けさせることで、より無駄のない買物の仕方を考えさせたい。その上で、購入する商品を選ぶ時の視点を示し、計画できるようにしていく。そして、実践を通して、考えたことや改善点を共有し、今後の生活に生かせるようにしていきたい。
- 本時は、前時に計画した買物メモを基に、課外活動として児童が実際に買物をした経験を振り返る活動を行う。自己の振り返りや友達からの意見を基に、買物の仕方の改善点などを考えていく。友達と意見を交流する際は、タブレット型PCのツールであるジャムボードを活用する。1枚のシート上にクラス全体の友達の意見をまとめて表示することができるので、よりスムーズに自分の考えと友達の考えを比較できることが期待できる。また、視覚的にも分かりやすくするため、実際に買ったものを事前に写真に撮っておき、説明の補助資料とする。活動の最後には、買物をする際のポイントを「買い物名人3か条」として一人一人がまとめ、今後の家庭での実践に役立つようにしていきたい。

(4) 指導と評価の計画 (全6時間)

指導時数	小題材名	学習活動
1	何にお金を使っているのでしょうか	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族が何にお金を使っているか振り返り、お金の使い方について考える。 ・生活を支えるお金と物について学習の見通しを持つ。
2	よりよい買い物の仕方を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの買物の経験から、買う前に考えることをまとめる。 ・売買契約の基礎を学び、注意点や配慮することをまとめる。
3 (本時その3)	買い物の仕方を工夫しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・買物の手順を考え、商品から情報を収集・整理する。 ・買物の計画メモを作る。 (・メモをもとに、実際に購入する。…家庭での実践) ・自分の買物を振り返り、良かった点や改善点を見付け生活に生かせるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・物や金銭は家族の生活を支えていることや買い物の仕組み、消費者の役割が分かり、計画的な使い方、消費生活と環境との関わりについて理解している。 ・購入目的に応じて必要な情報の収集整理ができ、物を適切に購入したり無駄なく使用したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な消費生活に係る課題を設定し、その解決に向けて情報を活用して解決方法を考え判断する力を身に付けている。 ・結果を評価・改善する活動を通して、よりよい消費行動について考えたり工夫したりして解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物や金銭の使い方や買物について、学んだことを生かして解決しようとしたり、見方・考え方の視点から改善したりして生活を工夫し、実践しようとしている。

(5) 本時の指導

- ア 小題材名 買い物の仕方を工夫しよう
 イ ねらい 物や金銭の使い方と買物について自分の活動を振り返り、改善しようとする。
 ウ 準備物 ワークシート、個人用PC、PC
 エ 展開

学習活動	時間	○指導上の留意点 ◎評価
1 本時のめあてを確認する。	5	○ 本時の意欲を高めるため、買物の様子を振り返る。 自分の買い方をふり振り返り、買い物名人を目指そう。
2 実践を振り返り、反省に対する改善策を考える。	5	○ 買物が上手にできた児童は、うまく買物ができた理由を考えるように助言する。(個人用PC) ○ 事前に、学級担任と実践の振り返りをしておく。 [特別支援学級児童] ◎ 身近な物の選び方や買い方について、実践を評価したり改善したりしている。 【思・判・表】(ワークシート・個人用PC)
3 感想を交流する。 ・グループで話し合い ・代表1名ずつ全体発表	20	○ ジャムボードに、自分の買い方と比較しながら友達の良いところやアドバイス等を入力する。(個人用PC) ○ 感想交流の補助資料となるよう、買物した物を撮影したり、レシートを残したりしておく。

<p>4 買い物名人になるためのポイント3か条を考える。 (個人→全体)</p>	<p>1 5</p>	<p>○ 今回の学習を生かして考えられるように、ポイントを提示する。 ◎ 物や金銭の使い方と買物について、一連の活動を振り返って改善しようとしている。 【主体】 (観察・ワークシート・個人用PC)</p>
--	------------	--

(6) 活動の実際

ア 対話的で深い学びにつながる指導方法の工夫

(ア) 言語活動の充実

児童が課外活動として経験した買物を振り返り、本時の前に自分の買物の良かったところや反省点についてワークシートに書いた。ペアやグループで話し合い、お互いに上手に買物をした点やアドバイスを書き込むことで言語活動の充実を図った(写真1)。例えば、「3パック千円でお得な買物をしている。」「2割引で買っている。」

など値段や分量に関することについて、児童同士で説明したり気付いたりすることができた。また、全員がレシートを持ってきて、そこから分かることについて話し合った。有料袋の表示から、「レジ袋にもお金がかかるのだな。」と気づき、マイバック持参の必要性を考えるとともに、レジ袋の持つ有害性にも目を向けることで、環境に配慮した買物についても理解を深めることができた。レシートに表示されていた「クレジット決済」などは児童同士では理解が難しいので、教師が補足して紹介し、現金以外の買物の仕組みについても理解する機会となった。



〈写真1 グループでの話し合い〉

(イ) ICT機器の活用

感想を交流する手段として、タブレット型PCのツールであるジャムボードを活用した(写真2)。友達の発表を聞いて、それに対する自分の意見を考えながら入力することができた。また、画面を共有し友達の意見をいつでも確認できることは、視覚的にも分かりやすかった。家庭でどんな買物をしたかを分かりやすく伝えるために、個人用のタブレット型PCを持ち帰って、実際の購入品を写真撮影し、友達に紹介することができた。レシートだけでは分かりにくい購入品も、写真だと手軽で分かりやすく効果的であった。



〈写真2 ジャムボードの活用〉

イ 学校と家庭をつなぐ学習展開の工夫

(イ) 家庭との連携

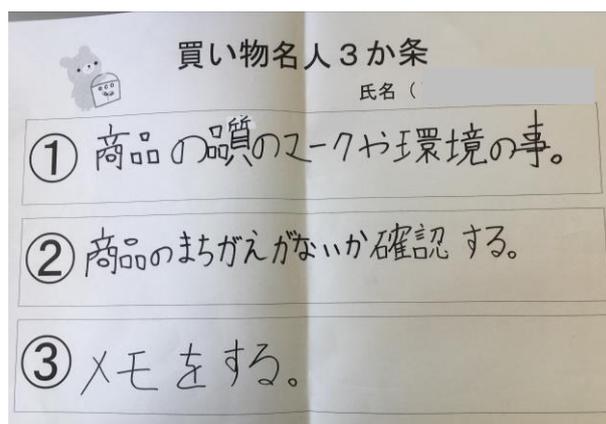
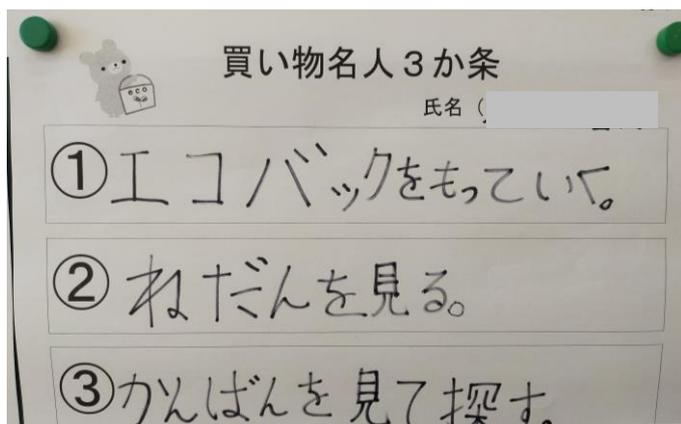
実際に買物を体験させるためには、家庭の協力は不可欠である。各家庭に今回の授業の内容を知らせ、「家庭での食事の一品を作るための食材を買う。」という目的と買物計画について理解してもらった。児童は自分で買物をするまでに、家族に普段の買物の仕方をインタビューしたり、買い方の相談をしたりした。そうすることで、児童自身が家庭生活での役割に目を向けたり、家族と積極的に関わったりすることができた。休日などを利用して、お店での買物体験を行ったが、12人中7人の児童は、買物計画を基に、商品選びから支払いまでを全て自分で行った。

(4) 継続的な実践

買物名人になるための3か条を書くことで、今回の買物で気を付けることを考え、実践意欲を高めることができた(写真3)。「買い物名人3か条」は家庭に持ち帰り、見えるところに貼るようにして、家庭での実践化を図った(資料1)。今後も家庭での食材の購入や生活に必要な物の購入において、児童自身が積極的に買物計画を立て実践することができる環境を整えていきたい。そのために、学級通信等を通して家庭に理解と協力を求め、家族内で相談する機会を持っていただくよう啓発を行う。そうすることで、今後も実生活に生かされる買物の実践を継続させたい。



〈写真3 買い物名人3か条の発表〉



〈資料1 児童が考えた買い物名人3か条〉

3 成果と課題

買物経験の少ない児童にとって、今回自分の力で買物をしたという経験は大きな成果であった。授業後には「また買い物をしてみたい。」「もっと上手に買ってみたい。」などの感想が聞かれた。「買い物名人3か条」を掲げることで、意欲の高まりが見られた。教科書だけでは学べないことを、家庭での実践によって学ぶことができた。今後は家族から感想をもらったり、買った物で調理をしたりして、自分と家族のつながりを実感させながら実践を続けていきたい。また、タブレット型PCの活用によって対話的な活動をスムーズに行うことができた。今後は、児童同士の感想交流等がより深まるよう、更に活用を工夫し、継続していきたい。

課題は、予算に対する意識の低さである。児童はこれまで、一人で文房具など自分の物を買うことはあっても、千円を超えるような予算で、家族のために必要な物を買うことはなかった。1つの食材がどれくらいの値段なのかという金銭感覚が身に付いておらず、値段を見ないで商品を選んでしまった児童もいた。「買い物名人3か条」には予算について書いている児童が多かったので、今後は予算に対する意識が高まることを期待し、更に経験を積みさせていきたい。そして、自分が家族の一員であることを自覚させ、家族の一員として生活をよりよくしていこうとする態度を育てていきたい。

生活をよりよくしようと主体的に考え、実践しようとする力を育てる家庭科学習

—第5学年「生活を支えるお金と物」の実践を通して—

北宇和支部

1 研究の視点

- (1) 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の工夫
- (2) 言語活動の充実

2 実践事例

- (1) 題材名 「生活を支えるお金と物」

- (2) 目標

- 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解する。
- 購入するために必要な情報を収集・整理し、目的に合った物の選び方、買い方を工夫する。
- 身近な物の選び方や買い方を考えて工夫し、自分の生活の課題を解決しようとする。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童 35 名は、家庭科の学習を大変楽しみにしており、意欲的に取り組める。しかし、自ら課題を見付けたり、自分の生活をよりよくするにはどうすればよいかを考えて工夫したりすることが苦手な児童が多い。本題材に関するアンケートを実施したところ、これまでに一人で買物をした経験がある児童が9割いたが、事前に計画を立て、よく検討して買うという経験は少なかった。また、買物の経験について、「家にあるのに同じ物を買ってしまった。」「よく確かめずに買ってしまい、思っていた物と違った。」「使い切れず無駄にしてしまった。」というような失敗経験が出てきた。このような失敗経験をもとに、これまでの買物の仕方の課題に気付かせ、よりよい買物の仕方を考えさせるようにすることが大切だと考える。そして、消費者としてよりよい選択をするためにはどうすればよいかを、主体的に考え、自分の生活をよりよくするために工夫できる力を育てたいと考える。
- 本題材は、学習指導要領「C消費生活・環境」(1)「物や金銭の使い方と買物」の内容である。物や金銭の大切さについて理解し、買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせ、目的に応じて工夫した買物ができるようにすることをねらいとしている。また、消費生活と環境に関する学習との関連を図ることで、自分の生活が環境に与える影響に気付き、持続可能な社会の構築のために、主体的に生活を工夫できる消費者としての素地を育てることもできる。既習の「整理・整とんで快適に」の学習との関連で、無駄のない物の使い方を踏まえた上で、家族の労働、の対価である金銭の大切さや目的に合った使い方について考えさせ、実践的に学習できるようにする。
- 本時は、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできるようにすることを目標としている。前時では、身近な文房具である筆箱を購入する場面を設定し、どのような視点で商品を選ぶとよいかをこれまでの買物の経験をもとに考えさせた。そこで学習した商品を選ぶ視点を、本時では食品に応用させる。食品を選ぶ際には、賞味期限や消費期限、産地などの視点が加わるので、文房具を選ぶときよりも情報を整理するのが難しくなると考えられる。そこで、食品選びに必要な視点をカードで示すことで、活動のねらいを明確にする。また、パフォーマンス課題を設定し、食べる人や状況を考慮することが大切であることに気付かせたい。さらに、自分なりの根拠を持ってよりよい商品の選択ができるようにするために、ワークシートやタブレット型PCを用いて情報を整理し、比較できるようにする。個人で考えた後に、グループや学級全体での対話的活動を取り入れることで、多面的な見方や考え方ができるようにさせたい。振り返りの活動の中にSDGsの視点を加えることで、持続可能な社会の構築に向けての環境への配慮についても意識付けたい。

(4) 指導と評価の計画（全7時）

時	学習課題・学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○ 何にお金を使っているか振り返り、課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 物や金銭の大切さについて理解している。（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 物や金銭の使い方と買い方について問題を見いだし課題を設定している。（ワークシート） 	
2	<ul style="list-style-type: none"> よりよい買物の仕方を考える。 売買契約が成り立つのはどんなときか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、計画的な使い方について理解している。（観察・ワークシート） 		
3	○ 身近な物の目的に合った選び方、買い方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物の選び方、買い方について理解している。（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物の選び方、買い方について考え、工夫している。（ワークシート） 身近な物の選び方、買い方について、実践を評価したり、改善したりしている。（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 物や金銭の使い方と買物について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。（観察・ワークシート）
4	○ 商品から情報を収集・整理する。（筆箱）	<ul style="list-style-type: none"> 購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。（観察・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物の選び方、買い方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。（観察・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 物や金銭の使い方と買物について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。（観察）
5 本時	○ 商品から情報を収集・整理する。（食品）	<ul style="list-style-type: none"> 購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。（観察・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物の選び方、買い方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。（観察・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 物や金銭の使い方と買物について工夫し、実践しようとしている。（観察・ワークシート）
6	○ 工夫して買物をする計画を立てる。			
7	○ 計画を振り返り、改善する。			

(5) 本時の指導（5/7）

ア 本時のねらい

- 商品を選ぶ活動を通して、購入するために必要な情報を適切に収集・整理することができる。

イ 準備物

ワークシート、センテンスカード、SDGsシール、タブレット型PC、商品の実物

ウ 展開

学 習 活 動	学習形態 (時間)	○指導上の工夫や支援 ☆評価
1 前時の振り返りをする。 ○ 品物選びの視点を確認する。 ・ 値段、環境への配慮、表示、品質や安全のマークなど 2 学習課題を確認する。	一斉 (2分)	○ 前時に学習した品物選びで大切にすべき視点を振り返らせることで本時の学習課題へつなげる。
朝ご飯の材料に、どの商品を選ぶといいの？		
3 パフォーマンス課題をもとに、朝食の材料を選ぶ。 (1) 選ぶ視点を確認する。 ・ 産地(地産地消)、安全性、分量、賞味期限・消費期限、便利さなど (2) どの商品を選ぶか考え、ワークシートに書く。 (選ぶ食品) ・ ベーコン ・ キャベツ	一斉 (3分) 個人 (10分)	○ 導入で振り返った視点をもとに、食品選びに適する視点をカードで示す。 ○ 解決したいという知的好奇心を膨らませるために、児童が想定しやすい買物の場面をパフォーマンス課題として提示する。 ○ 自分で考えるのが苦手な児童には、商品を比較するためのポイントを助言する。 ○ ワークシートを用いて情報をまとめることで、比較・検討できるようにする。 ○ 買物の様子を具体的にイメージしやすいよう、実際に商品を展示し、手に取って見ることができるようにする。
4 選んだ商品について、友達と話し合う。 (1) グループで話し合い、意見をまとめる。	グループ (10分)	○ 多面的な見方ができるように、ワークシートをもとに、自分の意見と比べながらグループや全体で話し合わせる。 ○ グループで意見をまとめやすくするよう、ロイロノートを用いてまとめる。
(2) 全体で話し合う。	全体 (12分)	○ それぞれの食品ごとに商品を選んだ理由を紹介し、よりよく買うために気付いたことや感想を共有する。 ☆ 購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。 (知・技)【観察・ワークシート】
5 本時を振り返り、まとめる。	一斉 (8分)	○ 良い点・問題点を明らかにしてまとめる。 ○ SDGsの視点を提示し、環境への配慮も意識付ける。
食品を買うときには、品物や表示、マークなどをよく確かめて選ぶと良い。また、環境への配慮も必要である。		

(6) 活動の実際

ア 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

(ア) 題材構成の工夫

学習の導入では、普段児童が何にお金を使っているかを、実生活における買物場面を振り返って考えさせた。また、アンケート結果から得た買物での失敗経験の情報をもとに、よりよい買物の仕方を考えようとする意欲に結び付けた。そして、物や金銭の大切さ、買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方などを学習し、理解した。その上で、身近な文房具である筆箱を購入する場面を設定し、どのような視点で商品を選ぶと良いかを考えさせた。その学習を踏まえて、食品であるベーコン・キャベツを選択する授業を行った。目的に合った物を選ぶように、児童が想定しやすい買物の場面をパフォーマンス課題として条件を変えて提示したり（資料1）、実物を用意して実際の買物の様子をイメージできるようにしたりした（写真1）（写真2）。また、ワークシートに商品の写真と、選ぶポイントを示し、児童が自由に書き込んで考えられるように工夫した。その結果、児童は、目的や条件に合わせてよりよい買物ができるよう、自分なりの根拠を持って商品を選び、まとめることができた（写真3）（資料2）。

朝ご飯の買い物（条件㉔）

宿題も終わって家でテレビを見ていたら、母から電話がありました。

「今日は、仕事で帰るのが遅くなりそうだから、買い物をお願い。明日の朝ご飯の材料に、ベーコンとキャベツを買ってきて。**明日から旅行だから、食べきれる量で、できるだけ新せんそうなもの**を選んでね。お金は、引き出しの中に財布が入っているから。よろしくね。」

と言われました。

よく母といっしょに買い物に行くので、「任せて！」と軽い気持ちで返事をしました。しかし、スーパーに行ってみると、種類がたくさんあって、選ぶのにこまってしまいました。財布の中には700円入っています。家族は4人、父と母と中2の兄と自分です。

あなたなら、どの商品を選びますか。なっとくできるように理由をあげて、上手な食材の選び方をアドバイスしてください。

朝ご飯の買い物（条件㉕）

おばあちゃんの家遊びに行っていたら、おばあちゃんからおつかいを頼まれました。

「歩くのが大変で買い物に行けないから、おつかいをお願い。明日の朝ご飯の材料に、ベーコンとキャベツを買ってきてくれない？**塩分ひかえめで、安全なもの**を選んでね。お金は、このお財布に入っているから。よろしくね。」

と言われました。

よく母といっしょに買い物に行くので、「任せて！」と軽い気持ちで返事をしました。しかし、スーパーに行ってみると、種類がたくさんあって、選ぶのにこまってしまいました。財布の中には700円入っています。おばあちゃんは80才の一人暮らしです。

あなたなら、どの商品を選びますか。なっとくできるように理由をあげて、上手な食材の選び方をアドバイスしてください。

朝ご飯の買い物（条件㉖）

宿題も終わって家でテレビを見ていたら、夕飯のしたくをしていた父から、

「今手が離せないから、買い物をお願いできないか？明日の朝ご飯用のベーコンとキャベツを買い忘れたんだ。

今日の夜、東京から親せきのおじさんがとまりにくるから、**愛媛県のもので、おいしそうなもの**を買ってきてくれ。お金は、そこの財布に入っているから。よろしくな。」

と言われました。

よく父といっしょに買い物に行くので、「任せて！」と軽い気持ちで返事をしました。しかし、スーパーに行ってみると、種類がたくさんあって、選ぶのにこまってしまいました。財布の中には700円入っています。家族3人、父と母と自分、そしておじさんを入れて4人分です。

あなたなら、どの商品を選びますか。なっとくできるように理由をあげて、上手な食材の選び方をアドバイスしてください。



<写真1 商品の実物>



<写真2 商品を選ぶ様子>



<写真3 考えをまとめる様子>

生活をささえるお金と物

めあて 朝ご飯の材料に、どの商品を選ぶといいの？

① 計画を立てる	目的	朝ご飯のおかずを作るために材料を買う。			
	買う物	ベーコン(焼く)・キャベツ(サラダ)			
	予算	700円			

② 情報を比較する	ベーコン	A	B	C	D
	選ぶポイント				
	産地				
	品質				
	表示・マーク				
③ 選ぶ					

④ 情報を比較する	キャベツ	A	B	C	D
	選ぶポイント				
	産地				
	品質				
	表示・マーク				

自分が選ぶ商品	選んだ理由
ベーコン C	1人くらいで量は少ななくてもいい、減塩だから。
キャベツ B	ビニールに包まれているので安全だから。
グループが選ぶ商品	選んだ理由
ベーコン C	わたしがおいしい、減塩だから。
キャベツ D	あらかじめ使えるから。
感じたことなど	条件によって買う物もちがうと分かりました。いままでわたしは見て選んだりしていたので、安全せいや量も大事なことが分かりました。
まとめ	今日SDGs
⑤ 振り返る	食品を選ぶときは、安全せいや量が大切です。食品を選ぶときは条件や表示・マークが大切です。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 情報をもとに理由を考えて商品を選ぶことができたか。 () ○ △ 自分の考えを伝えたり、友達の見解を聞いて考え直したりすることができたか。 () ○ △ これから買い物をするときは、品物や表示、マークなどをよく確かめて買おうと思ったか。 () ○ △

<資料2 児童のワークシート>

(イ) 家庭との連携

学習で習得した力を実生活で活用できるようにするため、家庭と連携し、冬季休業を実践の場として設定した。学年だよりや個別懇談会を利用して、実践内容についての説明と協力の依頼をし、各家庭で実際に計画を立て、野菜を選ぶという課題を出した。予算内で買物をすることや、必要な量・鮮度などをよく確かめて買物をするという経験がほとんどなかったため、難しく感じた児童も多かった。しかし、児童の多くは、授業で学んだことを生かして、選ぶポイントに沿い、根拠を持って自分なりによりよい選択をすることができていた。実際に買物の体験をすることで、気づきや学びも多く、実感を持った理解を促すことができた。また、買物の際、ほとんどの児童はエコバッグを持参しており、地元産のものやごみの少ないものを選んだり、食べ切れる量だけ買ったりなど、環境に配慮した買物をすることができた児童も多かった。実践に対して保護者からアドバイスやコメントをいただくことで、児童の励みとなり、達成感や実践意欲を高めることができた。さらに、実践の様子を通信で知らせることで、家庭との連携を図ることができた。今回の実践を通して、児童の成長や学習の大切さを保護者に感じていただけた(資料3)。

イ 言語活動の充実

(ア) グループ活動

授業の中で、自分が選択した商品について友達と意見交換させるため、グループ活動を取り入れた。話し合いでは、活発な意見交換ができ、自分とは異なる多様な考えに触れることができた。また、交流の中で、児童間の生活経験の差を埋めることができた。グループ活動を取り入れた協働学習を行うことで考えを広げ深め合うことにつながった(写真4)。

(イ) ICTの活用

グループで意見交換する際、考えを共有したり、比較したりしやすくするため、ロイロノートを活用して意見をまとめられるようにした。グループ内でまとめた考えを全体で共有することで、多様な見方があるということや、買物をする人や条件によって、選ぶポイントが変わるということに気づき、よりよい買物をするための考えを深めることができた。



<写真4 意見交換している様子>

○ 野菜を選ぼう！
家庭科で学習したことを生かして、品物選びをしてみましよう。お家の人と相談して、買う野菜を決め、計画を立てて買い物に行きましょう。

買い物に行く日	1/8(土)
買う野菜	大根
目的	おでんに入れる大根を夏う
予算	200円
選ぶポイント	<ul style="list-style-type: none"> 半分ではなく、1本 鹿北町産(なすやく) 新鮮なものを 葉っぱがついているもの
買ったもの	<ul style="list-style-type: none"> 鹿北町産 1本200円 包まれている 出荷日1/8
ふり返り	<ul style="list-style-type: none"> 新鮮な大根を選ぶポイントが気分 けて、安く買ったのが良かったこと 葉っぱ付きの大根を、おでんの他に サラダに使うこともできる
家の人から	<ul style="list-style-type: none"> 安く新鮮な野菜を買ってくれたです。買い物を通して 食生活のこともいろいろ考えることができました。

<資料3 買い物実践のワークシート>

- この勉強をして、表示やマーク、賞味期限や値段を見て買物をしたらいいということが分かりました。買物のときにあまりマークや量など気にせず買っていたので、次からは気にして買いたいです。
- 種類がたくさんあって迷ったけれど、条件にそって買うことが大切だと思いました。
- 選ぶ基準やポイントがいろいろあって、買う人や買う物によって変わるんだなと思いました。
- SDGs「2 貧困をなくそう」「12 つくる責任 つかう責任」と関連があると思いました。

<資料4 児童の感想>

3 成果と課題

実際の買物場面を設定し、実物を見ながら商品選択をするという活動を取り入れることで、児童は、買物のよりよい仕方を考え、自分なりの根拠を持って商品を選ぶことができた。また、グループでの活動や、ICTを活用した学習を通して、様々な見方や考え方があるということに気づくこともできた。授業後、保護者と一緒に夕飯の買物をしたり、遠足のお菓子を買ったりするなど、自分で考えて買物を行っている児童もおり、学習の成果を普段の買物に生かしていこうという意欲の高まりを感じることもできた。家庭との連携を密に図ったことで、児童の実感を伴った理解と、更なる実践意欲の向上に大変効果があったのではないかと考えている。しかし、持続可能な社会の実現のため、環境や安全に配慮する視点を意識させた活動の必要性を感じている。今後も、生活をよりよくしようと主体的に考え、実践しようとする力を育てるために、実践的・体験的な学習を取り入れるなど、継続して、より効果的な学習の工夫を図っていきたい。

研究会報告

1 令和4年度 小学校家庭科夏季実技研修会実施報告

(1) 期 日 令和4年8月4日(木)

(2) 会 場 松山市立垣生小学校

(3) 日 程

9:30~10:00	受付
10:00~10:10	開会挨拶
10:10~11:50	研修
11:50~12:00	閉会挨拶

(4) 研修内容

「家庭科における指導と評価の計画」

令和3年2月26日に行われた「愛媛県技術・家庭科教育研究会 家庭分野 評価研究会」における前文部科学省教科調査官 筒井 恭子先生の御指導の伝達講習と、それに基づく評価規準の作成

第5学年「おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁」の題材の指導計画を例として、内容のまとまりごとの評価規準の設定の仕方や題材の目標と評価規準の関係、具体的な評価規準の設定の仕方を確認した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ……について理解している。 ② ……を理解しているとともに、適切にできる。	① ……について問題を見だし課題を設定している。 ② ……について考え、工夫している。 ③ ……について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④ ……について、課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。	① ……について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ② ……について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ③ ……について工夫し、実践しようとしている。

指導要領解説を読んで具体化する。

4つの評価規準を設定
① 課題を設定する力
② 解決方法を考える力
③ 評価・改善する力
④ 表現する力

3つの側面から評価規準を設定
① 粘り強さ
② 自らの学習の調整
③ 実践しようとする態度

その後、様々な内容の題材を分担して、具体的な評価規準や指導と評価の計画を作成した。ここで集まった資料については、今後情報共有を行い、来年度以降の実践の参考にする予定である。